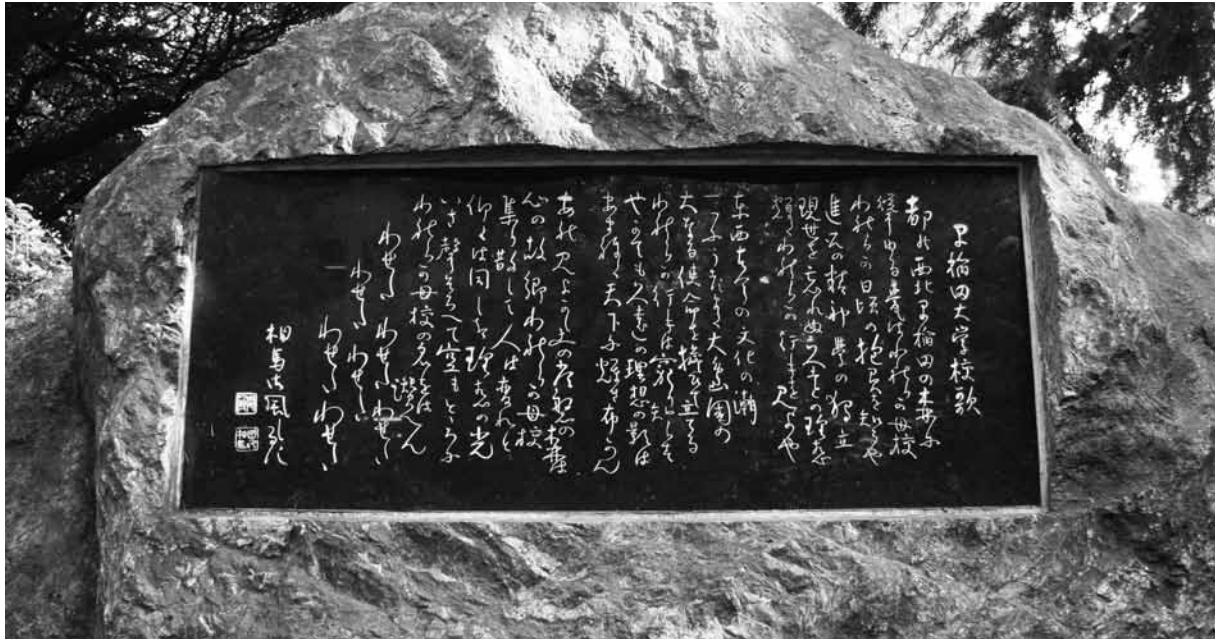




早稲田大学 校歌

(写真提供：早稲田大学校友会)

東久留米稲門会二十周年記念誌発刊に当たって

東久留米稲門会が一九九四年に設立されて早二十年という歳日を経りました。人間に例えると成人式を迎えたこととなります。その間、会員各位のたゆまぬ支援と歴代会長はじめ役員の方々のなみなみならぬ努力、また周囲のかたがたの甚大なるご協力のお陰で、このように晴れがましく、二十周年を迎えることが出来ました。関係各位に深く感謝を申し上げます。これを機会に記念誌を編纂することになり、二十周年記念事業実行委員長をはじめ二十周年記念事業実行委員ならびに記念誌編集委員各位の大変なご尽力により、このような立派な記念誌が出来上がりましたことを心よりお喜び申し上げます。また、ご多忙な中にもかかわらず本誌に御寄稿くださいました方々には厚く御礼申し上げます。

更には母校早稲田大学鎌田総長、早稲田大学校友会福田代表幹事より心のこもったご祝辞を頂戴し錦上添花を添えることが出来ました。誠にありがとうございます。

この二十年の間に十六に及ぶ部会が生まれ育まれて今では立派な部会に成長し、そのほとんどが活発に活動が続けております。又、定例の会合として、「定時総会」をはじめ「新年会」、「秋の旨いもの会」が会員の懇親の場として、運営されております。そして、会の情報をお知らせする「東稲ニュース」を一カ月おきに年六回、途切れることなく発行してまいりました。それから、母校支援としまして校友会を通じて奨学金への支援活動を毎年地道に行っております。地域への協力として、「映画鑑賞会」を定例開催し、市民の方々が常時満席に近い状態でいしえの名画を堪能されております。時には入場をお断りせざるをえないほど参加者がつめかけたこともある程の人気です。

これからも、役員、部会長、ならびに各スタッフが力をあわせて会員の為、早稲田大学、地元東久留米市の為に貢献できるよう頑張っていける組織でありたいと願っております。書物ばなれが進んでいるといわれている昨今、この「記念誌」は意義あるものになると期待しております。

ここに会員諸氏のご健勝を祈念しつつご挨拶いたします。

会長 安次峰 暁

東久留米稲門会 二十周年祝辞

東久留米稲門会の皆様方におかれましてはご健勝にて、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃から安次峰会長を中心に会員の皆様が一丸となつて会の運営に力を尽くされ、めでたく二十周年をお迎えとなりますことに心からの敬意と感謝の意を表します。

さて、グローバル化と少子高齢化が急速に進展し、容易にはその解決の糸口を見つけない地球規模の課題がますます深刻化するなか、わが国の大学は世界水準の教育・研究環境を実現し、世界中のいたるところで活躍する人材を生み出していくことが求められています。長引く経済の停滞から脱し、わが国を再び飛躍させようとする現政権の「日本再興戦略」においても、イノベーションの推進などと並んで、大学改革を含む人材育成機能の強化が重視されていることはご承知の通り



早稲田大学 総長

鎌田 薫

です。大学は自らの役割、使命を自覚し、大きく発展を期すための自己改革を進めなければなりません。

幸い、早稲田大学は、建学の理念のもと、長い伝統の中で蓄積された学問的・文化的資産と、優れた教育・研究環境を最大限活用することで、ひとりひとりの個性を尊重し、社会に貢献できる能力と人格の涵養に努め、世界に開かれた大学として発展を続

けてまいりました。「教育再生実行会議」の第三次提言においても、グローバル化対応を大学改革の第一の目標として掲げていますが、早稲田大学では既に二十年以上の長きにわたり国際化を推進してまいりました。セメスター制の完全実施とクォーター制の導入、六学部十一研究科で英語のみで学位を取れるプログラムを実施するなど、数々の先進的な取り組みにより、現在では約

四千五百人の外国人学生が学ぶ、日本でも国際化の進んだ大学となっています。

また、日本の各地から、個性豊かな学生が早稲田に集い、切磋琢磨しながら、人間力に磨きをかけるといふ早稲田の特色をさらに発展させるべく、入学者選抜制度の抜本的改革、奨学金制度の拡充、海外留学生と地方学生が混住する中野国際学生寮の建設など、早稲田大学の多様性を確保する環境づくりに取り組んでいます。

二〇一二年十一月には、新たな中長期計画“Waseda Vision 150”を策定し、アジアのリーディング・ユニバーシティとして世界に貢献する大学であり続けることを目指して、教育・研究・社会連携など幅広い分野でさらなる改革を続けていくことを宣言いたしました。このVisionの実現のために、既に多くのプロジェクトに着手していますが、今後も、校友の皆様との連携を一層強化しながら、精力的に自己改革を図ってまいります。

校友の皆様方には、これまでと同様、早稲田大学に対し熱いまなざしとご支援を賜りますようお願い申し上げます。皆様方のご健勝と東久留米稲門会のますますのご発展を祈念いたします。

ご挨拶

東久留米稲門会の皆様、二十周年まことにおめでとうございます。これまで稲門会活動の充実に努めていらした初代の安宅会長から今日の安次峰会長まで、歴代の会長をはじめとする幹事や会員の皆様にとりましてはこのお慶びもいかほどかと拝察いたします。

さて、一八八二年（明治十五年）に開校した私たちの学苑の卒業生は、ご生存の校友だけを数えても現在約五十九万人となります。そして、校友会には現在千四百を超える稲門会が登録されています。

国内の都道府県のすべてに校友会支部があり、世界の多くの国や都市に、校友会や海外稲門会があります。これだけの数の校友会支部・稲門会の活動は、東久留米稲門会をはじめとする各会ご所属の支部会員・稲門会会員の精力的なボランティア精神・活動により支えられています。深く御礼を申し上げます。

現在、母校では国内の大学で有数の四千五百名を超える留学生・外国人学生が



早稲田大学校友会
代表幹事

福田 秋 秀

学んでいます。この広がりは今後益々盛んとなります。母校の飛躍とともに、稲門の広がりも飛躍しています。「早稲田からWASEDAへ」と、私たちの母校は今や世界へ貢献する大学として大きな役割を担っています。

母校では、創立百五十周年（二〇三二年）を見据えた学生・研究成果・校友の姿を示した「WASEDA VISION 150」が策定・スタートされました。私の記憶の範囲

では、「校友」のキーワードが大きく前面に打ち出された初めての将来目標であります。私たち五十九万人の校友にとつては、大変光栄なことであり、また一方では私たち校友はこのビジョンの実現のため大変な責任ある役割を担ったということでもあります。

その一端をご紹介すれば「校友・地域との連携による地域リーダーの育成」「校友会支部・地域との連携による新たなコミュニティの形成」「校友をはじめとする生涯教育

の拡充」です。また、母校を経済的に支援する役割として、校友会給付奨学金等をはじめとする母校支援費の原資として活用されている校友会費の納入率を現在の二割代から五割へと改善すること。寄付金を現在の年間二十二億円から百億円に改善すること、などです。草創期の先輩方の言葉をお借りいたしますれば、校友会設立時の校友会規約の第七条には「会員ハ東京専門学校ニ対シ応分ノ力ヲ尽ス可シ」とありますから、私たち五十九万人の各校友は今まさにこの言葉を温故知新とし、初心に帰り、責任に力を尽くすべきだと申し上げたいと思います。

その一つとして、昨年三月の校友会代議員会では、校友会費による運営資金積立金のうち三億円を母校に寄付することを決定し、二〇一四年にオープンする国際学生寮「中野国際コミュニケーションプラザ」に役立てていただくこととしました。

「革新こそが伝統 支え続ける誇り」ともに世界へ ともに未来へ」をモットーにして校友の人生を応援し、若手校友の校友会活動への参加を推進し、また母校支援に邁進する校友会でありたいと思います。貴会の皆様方にも、どうかなお一層のご支援ご協力を賜れば幸甚に存じます。

東久留米稲門会のさらなるご発展と皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。結びの挨拶とさせていただきます。

東久留米稲門会 創立20周年記念誌

東久留米稲門会 20 周年記念誌発刊に当たって	安次峰 暁	1
祝 辞	早稲田大学 総長 鎌田 薫	2
ご挨拶	早稲田大学校友会 代表幹事 福田 秋秀	3
目次		4
歴代会長紹介		5
稲門会の発足とひばりが丘団地	初代会長 安宅 武一	6
稲門会雑記	二代会長 高橋 勤	7
三代目会長所感	三代会長 帆角 信美	8
四代目会長市川英雄さんを偲んで	三代会長 帆角 信美	9
稲門会 20 周年に寄せて	五代会長 平山 正経	10
20 年の歩み (概略)		11
部会の 20 年		
女性サークル	散策山歩き会	12 13
ゴルフ部会	囲碁部会	13 14
俳句部会	書道部会	15 16
太極拳の集い	グルメ部会	17 19
郷土研究会	ウォーキング部会	20 21
カラオケ部会	早慶戦観戦部会	22 22
諸芸術鑑賞会	旅行同好会	23 24
映画鑑賞会		25
会員寄稿 (稲門会名簿順)		
「東久留米稲門会と私」	川上 昇一	28
「稲門会入会の生き甲斐」	福田 稔	28
「俳句と私」	川俣 栄一	29
「双葉山と私」	呉 淳久	30
「駄句の楽しみ」	三田 三	31
「ご存知ですか？」	山崎 敬雄	31
「戦中・戦後の体験」	安藤 信雄	32
「早稲田雑感」	河村 洋子	33
「一瞬の眠り」	杉本 達夫	34
「もったいない」	榎本 隆司	34
「定年までの仕事の話」	馬場 清彦	35
「ワセダの思い出」	西村 享	36
「“オクノミクス”の思い出」	國米家己三	36
「ああ、ガリ版」	大島 勝典	37
「“東久留米稲門会”の誕生」	松崎 博	37
「“偉大なる凡人”大隈重信」	栄田 卓弘	38
「私と東久留米」	伊佐九三四郎	39
「今年は昭和 89 年・大正 103 年です」	館 雅子	39
20 年の歩み (年表)		42 - 63

東久留米稲門会 歴代会長



東久留米稲門会 初代会長

安宅 武一 氏

1995 年 4 月～ 2001 年 3 月



第二代会長

高橋 勤 氏

2001 年 4 月～ 2004 年 3 月



第三代会長

帆角 信美 氏

2004 年 4 月～ 2007 年 3 月



第四代会長

市川 英雄 氏

2007 年 4 月～ 2009 年 3 月



第五代会長

平山 正徑 氏

2009 年 4 月～ 2013 年 3 月



第六代会長

安次峰 暁 氏

2013 年 4 月就任～現在

稲門会の発足とひばりが丘団地

安宅 武一

平成七（一九九五）年四月十六日、東久留米稲門会は誕生した。設立総会は商工会館二階の講堂で行われた。その準備段階では・・

すでに東久留米稲門会の設立総会の日程まで決定していたが、さて地域の稲門会となると幾多の先輩稲門会は立派にスタートし、隆々と活動しているものの、三多摩でしかも小都市の東久留米市で果たしてうまくゆくだろうかと心配と不安は次々と襲ってくる。

第一に市内在住の校友数は約千名となっているが、果たして何人が参加加盟してくれるのだろうか。第二に資金難である。設立に積極的賛同者数名を発起人として立上がり資金をお願いした。会員の年会費は五千円と決めたものの加入人数次第では今後の活動資金としてはとても覚束無い。第三に会員の魅力ある稲門会とは何か。はては市民に稲門会の魅力をどうやってアピールしていったらよいのか。

しかし、こういった三つの不安は発足して二十年たった今日でも決して解消されたわけではないが、歴代の執行部・役員の皆さんの努力によって一つ一つ解決改善されてきている。

第一の市内在住校友数に対する加入者の割合は16・3%（平成十三年一月末現在）と、16%の壁はかなり厚いようであるが、一方財政面では会員数も思ったよう

に急増しないものの担当者の創意工夫によって、創立百二十五周年記念寄付金は三十二万四千円（平成十四年十月二十二日）と応分の役割を果たすことができている。第三の魅力ある稲門会活動は、各サークルの活発な活動報告の通りであり、市民へのアップीलは映画鑑賞会への人気と一般市民の動員数を見ても順調に推移していることが分かる。

さて、話を二十年前の設立総会当日に戻そう。当日来賓として出席された小山宙丸総長は東久留米稲門会の誕生を心から祝う旨の祝詞を述べられたのに引き続き大変興味深い話をされた。

それは総長の学生時代のお話で、当時ひばりが丘団地一体は旧中島飛行機の工場であった。鉄道との連絡が全く無いため、東久留米駅から学園町郵便局の裏手まで引込線を作り輸送の便をはかうという試みがなされた。その工事に早稲田の勤労働員の学生が駆り出されたのである。小山総長もその工事に携わったわけである。かなりな高低差があるので、単線の蒸気機関車でも路面は削って低く平に、両側面は土手をもつて高く、そして線路を敷くといった難工事であったという。

現在は遊歩道となっており、歩いてみると当時の面影をかすかに忍ぶことができる。なにしろ七十年以上も昔のことである。果して鉄道は完成したのか、どの位生産に貢献したのか何も資料が残っていない。その旧中島飛行機工場跡地は戦後いち早



ひばりが丘団地

（写真提供：東久留米市役所）

く開発に着手され、ひばりが丘団地が完成したのは昭和三十四年（一九五九年）のことである。

モダンな団地景観と隅々まで暮らしやすさを考えた街区設計は大いに人気の的であった。

しかし、それも今から五十五年も昔のことである。東京スカイツリーが完成し、二度目の東京オリンピック開催が決定した今こそ新しいコンセプトのもとにひばりが丘団地の再開発が進められて当然であろう。PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）という事業形態、UR都市機構（公）と事業主（民）が事業パートナーとなることによって街区設計やコミュニティ支援の施策などに公民それぞれが持つノウハウや技術を柔軟に活かし、住民本位の街づくりを推進するという話である。

ひばりが丘団地の再生事業区域約三十四ヘクタールの三分の二は高層に建て替えられ賃貸地区として残り、残りを新方式の事業形態による分譲物件として販売される予定である。

既に東久留米市地区には「子どもセンターひばり」「ひばり保育園」が完成オープンし、西東京市地区には児童館、学童クラブ、保育所、地域福祉施設が、特別養護老人ホーム「福寿園ひばりが丘」、介護老人保健施設「葵の園ひばりが丘」が完成利用が始まっている。

二度目のオリンピックを迎える頃にはひばりが丘団地は装いも新たに再び東京の話題をさらうことになるのではないか。

稲門会 雑記

高橋 勤

平成七年四月に稲門会が設立されては二十年、感慨深いものがあります。

設立後より安宅会長のもと事務局長としての会の運営に携わってきました。五月の第一回役員会、六月の第二回役員会にて平成七年度の会の活動方針が決定したのです。内容としては 一、組織と担当役員の役割。

二、稲門会設立を記念して植樹とし東久留米市に五万円寄贈。三、会員名簿の作成、会員数九十五名。

四、「東稲通信」の発行、年四回ハガキにて大学の最新の情報を中心に会のニュース等々を安宅会長が編集、七月一日第一号発行。

五、女性部会の創設、七月一日山岡、栄田、菱山、山下四名でスタート、同席者高橋、太田。六、散策山歩き部会、六月二十四日鎌倉散策、太田部会長。七、ゴルフ部会、七月十二日浦和C・C川上部会長。

八、稲門会の機関紙の発行、機関紙はその団体等が方針・活動内容などを表明する会の活動にとって欠かせない重要なものです。幸いに有能な編集長国米副会長を得て、「杜の西北」と命名、八月に創刊号を発行。九、加藤久氏の小・中学生を対象としたサッカー教室の開催の件、本人に直接面会承諾を得るも、諸般の事情により実行に至らず。十、東地区コスモス、西地区柳寿司での地区別懇親会を開催。十一、役員忘年会十二月。

以上初年度の会の運営は順調であったか

と思います。

八年度には稲門会主催による新年会、総会、夏の納涼会、また役員によるのちに部会長を含めた忘年会等々現在の稲門会の年間の行事のモデルを確立したのです。その後の部会の新設は八年度に囲碁部会、安藤部会長。俳句部会、橘部会長。九年度に書道部会、武藤部会長。等を立ち上げ、これらの部会は現在に至るまで活動は続いています。

稲門会の活動は当初より順調に運営を続けてきましたが、反面、設立の時より大きな問題をやらんでいたのです。東久留米稲門会は政治団体であるとの風評が広まり、ありもしない噂に翻弄されたのです。その誤解の理由として当稲門会の設立総会の日（東久留米市）に当選したことに、また当稲門会の幹事がその選挙に立候補し、名簿を利用したことがその遠因となっていたのです。この問題を解決するため、「杜の西北」の二号に安宅会長の対談を掲載して、当会の活動には「政治活動とはいっさい無縁」と宣言したのです。また機会があるたびに「政治には無縁である」と訴え続けたのです。役員会でも数年にわたって討論が交わされ激しい言葉のやり取りも有ったほどです。この問題が解決するまで約四、五年の年月を要したと思います。

平成十三年四月、私が二代目会長に就任して最初に取り組んだのは、役員人事を刷新したこと。副会長四名全員と幹事五名の退任を実行し、新任幹事十一名を指名

して新しい陣容でスタートしたことです。この人事の刷新は前段で書いた「稲門会と政治の関係」の最終的な決着を目的としたことを意味しています。

次に、会長就任最初の役員会で、会の運営方針を表明したのです。当会主催の行事として 一、電子時代に相応しい「ホームページ」を松崎新幹事が立ち上げ、当会の情報を外に向かって発信する手段としたのです。二、「東稲ニュース」の発行、ハガキ通信「東稲通信」に変えて隔月発行の会の行事と部会の活動また会員の投稿原稿等を掲載する会員を対象にしたニュース紙です。担当は比護副会長。三、ポストマン制度の開始、財政基盤の強化を目的とする為、一、二名の幹事の反対を押し切り、ポストマン制度を導入したのです。四、「東久留米雑学塾」の開講です。現代は高齢化と相まって生涯学習社会と言われています。文化活動の一環としての活動です。五、会の活性化のため新しい部会の設立、太極拳部会、船尾部会長。グルメ部会、神田部会長。郷土研究部会、高橋（哲）部会長。カラオケ部会、帆角部会長等を決定したのです。後にウォーキング部会、土屋部会長を発足。

平成十四年十一月第一回十六ミリ映画会、東久留米図書館にて高倉健主演の「ぼっぼや」を開催。その時、図書館職員より映画会をしても観客を集めることは大変ですとアドバイスを受けたのです。そこで考えたのは百円のカンパと客の住所氏名を集めることでした。その資料をもとにハガキを発送し次回の

映画会の案内、招待状としたのです。このアイデアは成功したと思っています。以後、ポスターを制作することなく映画会は盛況に推移しています。映画会は私が長い間温めてきた企画でした。古い名画等を上映し若き日の思い出と感動を映画の中に見出すことができればと思っています。

ここまで書いてきて言い足りない事もありますが、要求された字数を大幅に超えてしまいました。稲門会のこれからの益々の発展を願っています。



黒目川と西武線 (写真提供：東久留米市役所)

三代目会長所感

帆角 信美

私は高橋勤会長が健康上の理由から会長を辞任したあと三年間会長を務めました。高橋会長から会長職を引き継いだ時は戸惑いが半分、不安が半分といった心境でしたが、新事務局長の平山正徑さん、経験豊かな役員・部会長の方々が支えてくれるのに力を得て、次に掲げる三つのことを優先して実施することと、会長在任は長くても三年間と心に決めて、会の運営に携わりました。

一つ目は安宅会長、高橋会長の九年の間に軌道に乗ってきた会の活動を最低でも維持し、少しでもいいから前に進めることでした。これに関しては、部会活動に多少ばらつきがあったものの、所期の到達時点近くまで着地できたのではないのかと自分で勝手に診立てています。ただ、会の最大のテーマである会員増加については思ったような成果をあげることができませんでした。これは会永遠のテーマです。

二つ目は創立十周年記念事業を実施することでした。これに関しては、松崎博さんを委員長とする実行委員会を立ち上げ、平成十六年十一月二十一日（日）午後二時から東久留米市東本町の成美教育文化会館一階大ホールで「早稲田大学グリークラブ演奏会」を実施しました。会場には会員と同伴者、招待者（近隣稲門会、東久留米三田会）、校友、一般市民ら約三百名が集まり、二時間にわたり三十名選抜メンバーによる男性

合唱に聴き入りました。演奏会終了後はグリークラブ員を交えて懇親会を行い、盛況のうちに終了しました。

三つ目は早稲田大学百二十五周年記念事業募金に関し目標達成のメドをつけて次期会長に引き継ぐことでした。大学側から会に寄付金の目標額を提示された時は高橋会長の時でした。高橋会長が中心となつて会における募金方法を決め定時総会の承認を得て実行に移されていきました。私はこの募金事業を引き継ぎ、役員の皆様と一緒に会員や校友、企業などに募金を働きかけ、目標額達成のメドをつけて次期会長の故市川英雄さんになんとか引き継ぐことができました。

安宅会長、高橋会長が蒔いた種は現在、大きな実を結んでいます。安次峰現会長のもと会がさらに大きく飛躍することを心から祈っております。

四代目会長 市川英雄さんを偲んで

帆 角 信 美

私が市川英雄さんに初めてお会いしたのは確か稲門会総会後の懇親会でした。当時、市川さんは東証上場の中堅ゼネコンの副社長として活躍している一方、早稲田を愛する気持ち強く持ち、稲門会活動にも極めて熱心でした。年齢は私より五歳上。学ぶところが実に多い先輩でした。

私は高橋会長の次の会長に最適な人だと

考えて、市川さんと親しく接していました。周りの人々の思いも同じだったと思います。こうした雰囲気できてきている時に、肝心の市川さんが体調を崩して入院し手術を受けました。手術後の病院側の対応がまずく症状はさらに悪化し、市川さんは長期入院を強いられました。その最中に、会長だった高橋勤さんも体調を崩し、本命の市川さん不在のなか、私が高橋さんのあと会長を務めることになりました。

その間市川さんは療養を重ねた末に体調を回復、稲門会の会合に頻繁に元気な姿を見せようになりました。気力も充実してきていました。

私は会長時代、私と会の平均世代との間に五つ以上もの年齢差があることに違和感を抱いていたこともあり、「ここは市川さんに頼むしかない」と思い、任期が終わりに近づいた頃、初代会長の安宅武一さん、二代目会長の高橋勤さん、事務局長の平山正徑さんに私の思いを伝えてから、市川さんに会長就任を打診し、数日後了解を得ることができました。そして平成十九(二〇〇七)年四月の定時総会で市川さんの会長就任が承認されました。

平成十九年五月刊行の「東稲ニュース」第三十四号の新会長挨拶で、市川さんは「当稲門会の目的は、会員相互の親睦・啓発及び母校と地元東久留米市の発展に寄与することにあります。その基本は会員相互のコミュニケーションと交遊にあります。実際には各会員各様に『人心の同じからざるは、面の如し』です。しかしながら、同学の縁

を大切にして『より和やかに、より楽しい』集まりの稲門会を目指してゆきたいと思っております」と述べ、力むことなく穏やかな気持ちで稲門会運営に尽力、会に新しい息吹きをもたらしてくれました。だが市川さんは任期途中で再び体調不良に見舞われ、わずかに任期二年で会長を退かれました。

会長退任後は定時総会や懇親会、部会などに積極的に参加して会員と親しく交遊を続けていましたが、残念ながら今年一月十五日永眠いたしました。生前のご厚誼に感謝申し上げますとともに謹んで哀悼の意を表します。



大隈侯銅像 (写真提供：早稲田大学校友会)

稲門会二十周年に寄せて

平山正経

東久留米稲門会が設立二十年の節目を迎えたことは誠に喜ばしい事と心よりお祝い申し上げます。

私は二〇〇〇年の総会時稲門会に入会しました。当時五十八歳でサラリーマン生活もあと二年、そうなると困ったことに殆ど習慣になっていた飲み会が無くなってしまふ。地元では酒を飲むような親しい人も無く悩んでいた頃、稲門会から総会案内が来た。これだ！稲門会に入会しよう、その上趣味にしている書道の部会があると云う、それが動機であつた。

入会してみると多彩な催しがありゴルフ、ウォーキング、書道、映画鑑賞会、散策山歩き、グルメ、カラオケ、お誕生会などに積極的に参加した。お陰でワセダという一点で結びついた仲間が増えてゆき、退職後も有難いことに充実の時間を過ごせている。そのためか二〇〇二年幹事に、二〇〇四年総会で高橋会長から帆角会長にバトンタッチされると同時に、荷が重いと感じたが事務局長を引き受けさせられた。市川会長時代を含めいつの間にか五年間務めたことになる。この間、広く会員の方々と接し、活動の流れを掴むことが出来た。大学、校友会、三多摩稲門会、近隣稲門会、東久留米三田会などの対外行事にも極力参加した。

二〇〇九年市川会長から次期会長にと説得され、二期四年間何とかその役割を果た

せたのも役員との協力と会員及びそのご家族の支えがあったからと今でも感謝している。一番に心がけたのは会員の皆さんが「東久留米に稲門会があつて良かった」と云える稲門会、活発な部会活動と会員数を減少させないということでした。

また会員同士を結ぶ「東稲ニュース」の発行と充実の基幹事業であり、当時編集の成り手の無い中、仕方なく仮の編集担当者として始めた四十六号が結局六十九号まで四年間継続することになったが、自身のPC技術の向上には大いに役に立った。

二〇一〇年、三多摩支部の主管稲門会として当会、東村山、清瀬稲門会と開催した三多摩支部大会は、三者が一体となったチームワークが印象に残っている。この年早稲田大学総長が白井克彦氏から鎌田薫氏に変わった。また、二〇一一年の大学箱根駅伝優勝で大学駅伝三冠達成も忘れられない。

会長は最長でも二期四年と決めていたの、早稲田への思いは人一倍熱い事務局長の安次峰さんが次期会長に相応しいと考えお願いした。幹事も大いに若返り二十周年事業の取り組みも案ずるより産むが安しである。

それにしても稲門会は人材豊富、そして何より有難いことは地元で多くの知己を得て事あるごとに酒を酌み交わせることである。



南沢湧水

(写真提供：東久留米市役所)

東久留米稲門会 20年のあゆみ（概略）

平成7年	4月	設立総会	会長 安宅 武一氏	会員数 95 名
		東京都内第 33 番目の稲門会として発足		
	6月	散策山歩きの会発足	鎌倉ハイキング	
	7月	ハガキ東稲通信 第1号	年4回発行、会員名簿発行	
		ゴルフ部会発足	浦和ゴルフ 春秋各1回	
	8月	会報 杜の西北 第1号	(3月に第2号) 年1回	
平成8年	2月	俳句部会発足	隔月開催でスタート・現在毎月開催	
	3月	囲碁部会発足	毎月開催	
	5月	女性サークル発足	野崎美術館・近郊散策	
	11月	野球早慶戦観戦会発足	秋、春各1回 神宮球場	
平成9年	4月	第3回総会	ラグビー部 日比野教授 講演	
	11月	書道部会発足	毎月1回	
平成10年	4月	第4回総会	競走部	世界の瀬古利彦監督 講演
	10月	グリークラブ 演奏会	中央公民館	満席
平成13年	4月	第7回総会	会長 第2代 高橋勤氏	会員数 166 名
	6月	グルメ部会発足	蕎麦 田中屋	
	9月	太極拳部会発足	市民プラザホール	週1回
		東稲ニュース創刊	ハガキ東稲通信を発展す	
		ポストマン制度スタート・ホームページオープン		
	10月	第1回雑学塾	坂本信太郎	名誉教授
平成14年	3月	カラオケを楽しむ会発足		
	10月	郷土研究会発足		
	11月	第1回映画鑑賞会スタート	「ぼっぼ屋」 中央図書館	
平成15年	4月	三田会発会	交流スタート	
	6月	ウォーキング部会発足	水元公園と江戸川堤ウォーク	
平成16年	4月	第10回総会	会長 第3代 帆角信美氏就任	会員数 168 名
	11月	創立10周年記念	グリークラブ 演奏会	
平成19年	4月	第13回総会	会長 第4代 市川英雄氏就任	会員数 153 名
	7月	お誕生会発足	毎月開催	
	9月	大学創立125周年記念寄付金	6年間総額 2,772,150 円	
	9月	ラグビー観戦会発足	日英大学ラグビー	
	11月	諸芸術鑑賞会発足	日本フィルハーモニー鑑賞	
平成20年	3月	ウォーキング部会	山手線一周の旅はじまる	
	4月	第14回総会	大学よりゴールデンフラッグ受賞 (記念寄付金目標達成による)	
平成21年	4月	第15回総会	会長 平山 正経氏就任	会員数 156 名
	10月	秋の旨いもの会スタート		
平成22年	10月	稲門祭にて当会初代会長	安宅武一氏校友会功労賞を受賞	
	11月	三多摩稲門会幹事支部となる	奥島元総長講演「早稲田と私」	
平成24年	5月	旅行同好会発足	信州松本・安曇野・善光寺を訪ねて	
		ウォーキング部会	山手線一周の旅	完結
平成25年	4月	第19回総会	会長 安次峰暁氏就任	会員数 165 名
	9月	20周年記念事業概要策定		
平成26年	4月	第20回総会	記念講演 原 武史	明治学院大学教授
		「東久留米のアイデンティティーとは何か」		

(20年間の詳細年表は、P. 42～63にあります)

稲門会各部会の二十年

女性サークルの活動

東久留米稲門会の設立二十周年に当たり、女性サークルの部会長経験者に部会活動の思い出などを振り返っていただきました。

栄 田 征 子

設立総会では女性の参加者は五名でした。安宅会長、高橋幹事長らの発案で女性サークルが誕生しました。電話作戦などで次々女性会員が入会し、月一回駅北口の喫茶店で楽しい女子会を持ちました。やがて男性会員ご家族市民参加の親睦会を考え、意見を出し合い実行可能な企画から実現しました。野崎美術館・村野邸、山崎パン工場見学、ピアノとヴァイオリンのデュオコンサート、ハーブ園見学など今はなつかしい思い出です。

石 寺 美 弥 子

栄田征子姉によって創られたこの女性サークルは、全てを忘れて私達女子が学生時代に戻れる貴重な場です。催し物等を観に行つて楽しくランチを頂いて、住处に一緒に帰つてくる。由無し事を語り合いながら。しかし、皆様がお買い求めになるものはご主人の好物ばかりです。私が部会長の頃はなにしろ駅にせよレストランにせよパンフレットばかり集めていました。何か良い催しはないかしらと電車の中刷りも真剣にみもしました。

棚 野 愛 子

私は二度部会長を務めさせていただきました。当時二人の母を介護しながら(その年に亡くなるのですが)これは今でも驚きでもあります。特に川越の喜多院、音羽の鳩山邸の見学他、楽しいひとときを過ごしたことを思い出されます。何より皆さんの若さで、いくらでも歩けたのがすごかったです。いつも各年の企画は新鮮で好奇心を駆り立ててくれました。有難うございました。

山 岡 恭 子

当時、ひよんな事から関わるようになった、東久留米商工会議所での設立準備会の事は、今でも良く覚えています。後に初代会長になれる安宅さんを中心に皆、第一回の設立総会をどの様に迎えるのか? 基本的な会の運営方針は・・・など重要事項が次々と決められていきました。当然の事ですが、皆今よりマイナス二十才。会議室はいつも熱気で溢れていました。かくいう私も三十代。かなり若かったです。そして第一回総会は無事に終わり、いよいよ当時の高橋勤事務局長の発案のもと、女性サークルが設立されました。属性によるサークル活動って珍しいなあ・・・と思いながらも活動が開始されました。

当時は個人情報保護法もなく、校友会から頂いた情報をもとに市内在住の女性校友にローラー作戦で、連日勧誘の電話をしましたが結構怪しまれ、効果は今一つの感でした。女性サークルの数ある活動の中でも一番記憶に残っているのは、初代女性サー

クル部長の栄田さんが中心になり開催されたアクセサリー作りです。栄田さんが色とりどりの美しい和紙をご寄付下さり、各自好みで、ブローチやネックレス作りに挑戦しました。栄田さんが先生です。当時小学生だった私の長女や長女の友達までもが参加させて頂き、皆それ相応に素敵なアクセサリーが完成しました。最後にお菓子やお茶を頂きながら、それぞれの作品を評価し合ったのも楽しい思い出です。

また、これを書いていて思い出した事があります。寒い二月の幹事会の晩・・・その日、私の長男の早大高等学院の合格発表があったのですが：「親子二代で早稲田! 素晴らしい! おめでとう!」と幹事の方々から、次世代の後輩に心のこもった暖かい祝福を頂き、ありがたく感謝の気持ちで胸が一杯になった事もありました。

私は二〇一一年より頸部ジストニアという原因不明の神経難病を患っています。この病気は、痛みがあるわけでもなく、命の危険もないのですが、首の筋肉が不随意運動をおこしたり、斜頸になったりする難病です。その治療のため二十六年間暮らした東久留米を離れ、昨年新宿に転居しました。東久留米での生活は、稲門会の歩みと重なり、稲門会と苦楽を共にしてきた感があります。女性サークルが中心の参加でしたが、どれもこれも大切な思い出です。素晴らしい先輩の方々、女性サークルの方々との思い出です。この様な稲門会の礎を築いて下さった初代の会長、幹事の方々や、その灯を絶やすことなく脈々と活動を続けて下



女性サークル（平成22年6月 永青文庫にて 吉川明美）

さつっている歴代、現役の会長、幹事の皆さまに改めて感謝している今日この頃です。

吉川 明美

以前配布していた「杜の西北」で、女性の部会が出来たと知り稲門会に入会しました。女性サークルの活動では、女性会員で色々な所を訪れたり食事やおしゃべりもあり、毎回参加するのが楽しみです、できるだけ参加してきました。どの活動も楽しい思い出です。部会では若手(?)ということまでこれまで部長を四回務めました、活動の企画には無い知恵を絞っていますので、参加してください。の方々には感謝しています。

散策山歩き会

部会長 安次峰 暁

山のことに詳しくない私が、川上昇一代部会長から山歩き会の世話役を引き継いだのが平成十八年春でした。体力には自信があったのですが、簡単なハイキングしか行ったことはないし、他の人を案内するほどの経験もないのでお断りをしたのですが、川上さんの指導のもとで、森田隆さんの助力を仰げるということになり、お引き受けをすることになりました。

爾来七年間、毎回川上さんに「行き先」「行程」を指示して頂き、森田さんと二人で下見のハイキングを行い、反省会の場所も打ち合わせしながら本番にそなえました。慣れたために下見と本番の道順が違ったりということもしばしばあったと思います。

当日は川上さんがいつも出席して下さり引率して頂きました。川上さんと森田さんが中心となって私があとからくっついて行くかたちで、お二人には本当に感謝いたしております。また、その都度ご参加くださった方々にはこの場を借りて心より御礼申し上げます。

平成十八年からの

山歩き会の活動を記します。

平成十八年十一月二十三日（祝・木）

「鳩ノ巣溪谷」 十名

平成十九年 五月二十六日（土）

「北向き地蔵、ユガテ」 十二名

十一月二十三日（祝・金）

「三つ峰山」

十六名

平成二十年十一月二十一日（金）

「日和田山」

十一名

平成二十一年 五月二十二日（金）

「七国峠」

六名

平成二十二年 六月 六日（日）

「狭山丘陵・六道山公園」 十三名

十二月十二日（日）

「鎌倉」

十七名

平成二十三年 六月 三日（金）

「仏子・加治丘陵」

七名

平成二十四年十一月三十日（金）

「平林寺」

十一名

ゴルフ部会

部会長 伊 東 毅

平成七年の東久留米稲門会発足時より活動を始め平成十五年までは春・秋年二回のコンペを、平成十六年からは東久留米三田会との対抗戦も春・秋各一回開催となり、現在は年四回ゴルフ会を開催しております。平成二十五年までに実施したコンペは合計五十八回（内三田会との対抗戦は二十回）に及んでおります。

稲門会ゴルフ部会は故太田晴之助さん（S三十二年卒）を中心に創設され、三田会との対抗戦も同氏の多大なご尽力でスタートしました。二十年の部会活動の内、後半の十年については個人スコア等詳細記録

が残っています。部会員で希望あればデータをお渡しできます。平成十六年以降の開催ゴルフ場は玉村ゴルフ場（群馬県玉村町）十八回、熊谷ゴルフ倶楽部（埼玉県熊谷市）十一回、その他六ゴルフ場で十回。料金が格安の玉村、本格的なコースで人気の熊谷が圧倒的に多くなっております。

三田会との対抗戦は新ペリア方式による各会ネットスコア上位四〜六名の合計によって団体賞を競うもので現在まで稲門会は六勝十三敗一分け、まことに不本意な戦績です。ゴルフ部会員を代表して見苦しいかとは思いますが言い訳をさせていただきます。前半十回は稲門会の戦力が整わずに二勝八敗、後半十回は新ペリアのハンディキャップが稲門会に味方しなかったのが主な原因で四勝五敗一分けと負け越しという結果でした。但し二十回の対抗戦の上位四〜六名のポイント合計は三田会五八二ポイント、稲門会五八一四ポイントが示す通り、実質的には互角でした。

思い出に残っている出来事は太田先輩のことです。ゴルフはお上手ですので大体の時はティショットはオナー（四人のうち前のホールがベストスコアのプレーヤーが最初に打つ）になりますが自分が打ったらすたこらコースの端前方を歩き出しあとから打つ人から危ないですよと警告されることが多かったことです。ゴルフコンペのスタート前のミーティングで幹事から再三四人全員が打ち終わってから行くようにお願いしても守ってくれず、筆者のように打球が左右に曲がる者にとっては打ちにくく

困ったことが思い出に残っています。

稲門会のエースは上原徹也さん（S四十卒）で早慶ゴルフ会で最多の五回優勝、平均クロス八十四・ハストローク、方や三田会は菊地輝彦さん（S四十卒）で二回の優勝、平均八十四・三、圧巻はクロス七十二、ハンディキャップゼロ、ネット七十二と言う驚異的な優勝記録を残したことです。二十周年ということで皆から慕われた太田さんのことと三田会との対抗戦をメインの記事としました。稲門部会員は現在二十名弱ですがメンバーが固定気味でなかなか増えず新規参加者を待ち望んでおります。



（平成 25 年 11 月 6 日 熊谷ゴルフ倶楽部にて 伊東 毅）

囲碁部会

部長 荻 草 正 守

囲碁部会の月例会を覗いてみませんか。

囲碁をこれから始める全くの初心者の方からアマチュア全てのレベルの方に対応できる会員が揃っています。

囲碁を「手談」ということがあります。盤上に置く一石一石が無言の会話になっているということ。「碁敵は憎さも憎し懐かしき」という川柳がありますが、この無言の会話に、或いは井戸端会議と同様の安らぎがあるのかも知れません。

囲碁が強くなるには、とたまに聞かれますがこれは難しい。総論的には実戦を多く重ねるとか、熱意とか、負けることにより一層口惜しさを覚えることとかその他いろいろあるでしょうが、具体的にはその人の現状によって千差万別です。例えば初心者には定石を覚えなさいと言いますが、アマチュア四〜六段程度になって上達の壁に当たったときはあまり定石を覚える必要はありません。定石を忘れなさいと逆を言うこともあります。

盤面をよく眺めることはとても大切です。タテ・ヨコ僅か十九路の盤面がなぜ見えないのか。常に全体を見て碁を打てばそれだけで五〜六段以上の力があると言われるほどに全体を見るのは難しい。かって二〜三年囲碁から離れていたのに少し上達していたということがありました。ゴルフで言えば二〜三年クラブに触れていないの

に少し上手になっていったということにでもなるのでしょうか。なぜかはわかりません。恐らく物の見方を少し変えるような事柄があつて視野が若干広がり、囲碁においても戦いの場面だけでなく全体を支える裾野まで目が届くようになったのかも知れません。囲碁の面白さの一つに相手の石を取る快感があります。初心者には石を取られないようにと言いますがアマチュア上位に進むには、どのように自分の石を取らせるか、効率的に損をする方法を工夫しないと上達への壁が破りにくいのです。

老境を迎え囲碁を読む力は低下していきと内心思いながらも、思考力を持続するには体力も必要などと言いつつ同居している昨今です。認知症を遅らせるのにどれだけ役立つかはわかりませんが囲碁を通して同好の輪を広げたい。幸いにして囲碁は体力年令にこだわらない趣味です。ぜひ月例を覗いてみて下さい。

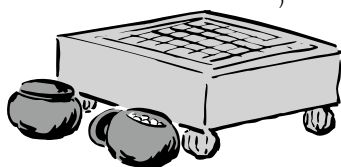
東久留米稲門会囲碁部会員十七名

(九段～五級)

月例会は

毎月第四日曜日午後一時～

成美会館4階



俳句部会の歩み

比 護 喜一郎

東久留米稲門会が発足した翌年の平成八年正月明け、橘正治（29年卒・文 故人）と高橋貞一（貞真）（26年卒・商 消息不明）が中心となって創部に奔走、同年四月に入って橘正治部長、高橋貞一副部長、杉本達夫（早



囲碁部会（平成 25 年 11 月 秩父 越後屋旅館にて 鮎貝盛和）

大教授）顧問、比護喜一郎（三十七年卒・商）総務渉外事務担当の陣容が整い、同十五日（土）同好の士十三名が集まって悠々第一回句会が開催された。

当初は、原則隔月開催としたが、部員の熱意・要望もあつて平成十四年から毎月（原則第三日曜日）開催に増会され現在に至っている。吟行は春秋年二回行うことを旨とし、平成十年十月三十一日の名刹「平林寺」を皮切りに、今日までの訪問先は二十六ヶ所（二十六回）を数えている。平成十三年九月恵那峡・木曾路、十四年九月鬼怒川、十五年四月奥多摩、十六年十月箱根、十七年十月四万温泉、十八年十月榛名湖、十九年十月伊豆稲取、二十年十月湯河原夫々一泊二日の吟行俳句会も催行された。残念ながら部員の高齢化もあつてここ数年は一泊吟行は縁遠くなっている。

橘正治（雅契）初代部長、太田蔵之助（千雪二十三年卒・商）第二代部長は惜しくも故人となられ、現在は第三代部長三田三（畔巢）（三十三年卒・政経）から橘優治（四十一年卒・商）に引き継がれている。近隣稲門会俳句部とも自然発生的に交流が生まれ部員相互の往来がある。



集まり参じて部員数は二十三名を最多に
昨今十五名前後で推移している。亡くなら
れた東稲俳人も数多く、ここに故人の遺作
の一端を掲載して記憶に留めたい。

植松健一（芟青）（早大名誉教授）
更衣徒手空拳にてありぬ

橘 正治（雅契）（29年・文）
残鴨幸橋や曲橋

坂本信太郎（早大名誉教授）
槌音のもののうきりズム油照り

高塩和巳（28年・商）
年の瀬や子らが困める研ぎ師あり

太田蔵之助（千雪）（23年・商）
幼名で呼び合う友や盆踊り

大川洋子（浩仙）（29年・文）
春寒し老女独りの夕餉かな

太田晴之助（32年卒・政経）
夏祭りゆかたに惚ぶ父の丈

市川英雄（33年・政経）
初春や七十余年の牛歩かな



書道部会の歩みと書感

部会長 武藤 豊

平成九年、とある日、高橋 勤さん（当時の名幹事長）から書道部の面倒を見てほしい、自分が全面的にフォローするから、との強力な聲の下に書道部が発足しました。爾後、浅学菲才な私が指南役となり既に作品展も7回、併せて市民展に、更には東京都美術館に出展する等活発な歩みで今日に至っています。

思えば発足当時、部員（二十七名）の殆どの人が小学校以来、数十年振りに筆を握る、といった具合で月一回の練習は恰も純真無垢な小学生が半紙に向かっているかのような何とも頼りない有様でした。お先どうなるのかな、と、杞憂したものです。が、流石に稲門魂らしく真摯に練習を重ねその進歩も著しく現在は一端の書家の如く部員各自が古典を学び、自習しながら書作品を創作し得るまでになっています。まさに継続は力なりです。

書が上手くなるには 一、多書 二、多見 三、多聞 の三点に尽きます。

難しい理屈はともあれ先ずは書くこと、天才レオナルド・ダ・ビンチは弟子から絵はどうすれば上手く描けるかとの問いに、先ず描くことだよ、また自分より上手い人に学び真似をすることだよ、と云ったそうです。つまり学ぶとは、まねぶ、まねること、即ち古典の美しい書体、書風を忠実に学ぶ（臨書）ことです。



書道展（平成25年11月 成美教育文化会館にて 武藤 豊）

書は「書を校するは塵を払うが如し」の格言の通り塵は払っても払っても尽くせないように書も書いても書いても完全無欠な書を望むことは至難です。力の入れ具合で、千変万化する毛筆の融通無碍な魅力も基本があつてからこそだと思います。書の神様と云われる王羲之は書の基本点画「永」の字、永字八法の練習には日々欠かさず、書の基本をしつかり押さえたこと云われています。現在十六名の部員が書を趣味として友好を深めながら二年に一回の作品展で各自の

力作を披露しています。その都度まだまだ力不足で恥をかいています。書の基本を肝に銘じながら上手下手を気にすることなく「読書百遍意自ら通じる」の格言通り書も百遍書けばそれらしい書になる、と、各部員が互いに叱咤激励しながら趣味の書に親しんでいます。

何でもいい自分の楽しみを見つけましょう！そうすればきつと心も落ち着きます。何を始めるにしても決して遅いことはないと思います。もし、書に興味がありましたら東洋が誇る伝統文化の美しい視覚芸術である書を我々書道部員と一緒に書の世界の玄奥を覗いて見られては如何でしょうか！？和気藹々自由に活動しています書道部会が皆様をお待ちしています。

『太極拳の集い』十三年の歩み

太極拳の集い代表 鮎 貝 盛 和

平成十三年九月、高橋第二代会長の発案により、東久留米稲門会の部会の一つとして、「太極拳部会」が創設されました。早いもので今年で十四年目を迎えます。

稽古場所は初めのうちは市役所の市民プラザホールやさいわい福祉センター等その都度変わっていましたが、現在は成美教育文化会館の一階ギャラリーに決めて稽古に励んでいます。（稽古回数年間四十三（四十六回））

会員も当初は稲門会会員と会員の配偶者・友人に限定していましたが、東久留米稲門会の規約・第二条（本会は、会員相互の親睦および啓発をはかるとともに、早稲田大学および東久留米市の発展に寄与することを目的とする）に則り、一般市民の参加も歓迎してきました。

会員数の増減はありましたが、現在会員は三十余名です。会員の四割弱が稲門会の会員で残りが配偶者その他と幅広い方々に参加して戴いています。

女性会員の中には、市民ボランティアなどで活躍されている方もおりますので、毎回参加ということはできないので、全員が稽古に参加することはありませんが、毎回十五（二十五）名位が参加しています。

太極拳には色々な流派（註）がありますが、当会では設立当初指導役に当たった方が覚えて来た「楊名時の健康太極拳」を稽古してきました。

平成十九年三月、前任者の退会により新生「太極拳の集い」として、装いも新たに再出発しました。有資格者の居ない中、文字どおりの「無資格・無免許運転」の状態での再出発でした。初めは手探り状態で、前任者の真似をしていましたが、市販の参考図書やビデオ（DVD）などを参考にして徐々に前任者のカラーから抜け出して来ました。

平成二十二年の九周年記念集会の懇親会で会員の中から、「楊名時のカリキュラムだけでなく、他の太極拳は出来ないか」との意見が出され、半年ほど考えた末に「制定

太極拳」の中の「簡化二十四式太極拳」を組入れることにしました。



（写真－1）野外稽古のひとつ（平成26年4月 稲荷山公園にて 鮎貝盛和）

永年、楊名時の健康太極拳を稽古してきただので、イキナリ簡化二十四式を稽古することには無理がありますが、幸いなことに簡化二十四式太極拳には「入門太極拳」と「初級太極拳」とそれぞれ八つの型で構成されている初心者向けのものがある為、先ず、入門太極拳を次いで初級太極拳を習得することになりました。入門・初級二つの太極拳をほぼ覚えた頃から二十四式太極拳に取り組んでいます。

稽古内容は前半が楊名時の健康太極拳、後半に簡化二十四式太極拳をと欲張った内容で稽古しています。

稽古は原則として、毎週土曜日十時～十一時半、場所は成美教育文化会館で行っています。特別行事として、春には、お花見を兼ねた野外稽古（写真1）を、秋には周年記念懇親会を開催しています。

今年二十周年を迎える東久留米稲門会の記念行事の皮切りとして、稲門会の会員およびご家族とご友人の参加による「初心者教室（太極拳を楽しみませんか）」を三月十五日（土）に成美教育文化会館グリーンホールで開催しました。（写真2）十名以上の会員外の方が参加され、和気藹藹と太極拳を楽しみました。参加された方にこの場で厚く御礼申し上げます。

会員相互・太極拳を楽しむ方がたとの親睦を兼ねて、日頃の運動不足の解消に、また、健康増進の為に太極拳を楽しみませんか。初心者／ベテラン、大歓迎です。入会は随時受け付けています。見学希望者は何時でもどうぞ！



（写真－2） 20周年記念行事に集まった方がた（平成26年3月 成美教育文化会館にて 鮎貝盛和）

入会金…千円、参加費…一回五百円です。
お問い合わせ…☎472・6446 鮎貝
☎478・6023 渡辺
以上

註

太極拳は「伝統太極拳」「制定太極拳」「規定太極拳」の三つに分けられます。

I 伝統太極拳…主なものとして、次の五つの流派があります。

- ① 陳式太極拳 ② 楊式太極拳
- ③ 呉式太極拳 ④ 武式太極拳
- ⑤ 孫式太極拳

II 制定太極拳…伝統拳を誰にでも学べる新しい太極拳として中国の国家体育委員会が制定したもの。

- ① 簡化二十四式太極拳（一九五六年発表）
- ② 八十八式太極拳（一九五七年発表）
- ③ 四十八式太極拳（一九七九年発表）

III 規定太極拳…アジア競技会に合わせて、競技用として制定された「国際規定太極拳」

- ① 総合太極拳（四十二式太極拳）
 - ② 陳式規定太極拳 ③ 楊式規定太極拳
 - ④ 呉式規定太極拳 ⑤ 孫式規定太極拳
 - その他の太極拳
- 上記の他、太極剣三十二式、同四十二式、太極扇三十六式などがあります。

楊名時の健康太極拳は簡化二十四式太極拳を日本人に合った高齢者用にアレンジ（振付け）されたものです。（一九六〇年発表）

グルメ部会事始め

神田 尚 計

思い返すと今から十三年前の夏の終わり頃であった。当時の会長の高橋勤さんから、「今度、グルメ部会を作りたい。ついでには部会長をやってくれ」という話があった。「どうして僕が？」と聞いたところ「あなたがグルメで、いろんな旨い店を知っていると聞いているから」とのこと。びっくりして「僕はヒガシグルメです。グルメだなんてとんでもない」と断ったが、思い当たることがあった。

それは私が若い頃からメモをとる癖があり、友人からメモ魔だとかかわれた程で、自分が食い意地が張っていることもあり、人から聞いた店、テレビや新聞雑誌などで紹介された店などをメモしておき、それを地区別にファイルしていたのが、いつの間にか随分の量になってしまい、友人から「どこそこの地域の良い店を教えてください」と相談を受けるようになった。そんなことが会長の耳に入ったということらしい。

そうした事情を話して断ったが、それでも「森田隆さんが協力してくれると言っているから二人で是非とも」と言われ、あの篤実な彼と一緒にやってくれるならと、つい引き受けてしまった。

第1回は平成十三年十月、発会式を兼ねて小平の懷石の店「いろりの里」とした。参加者は十六名。小平駅から送迎バスで十五分。玉川上水沿いで、嵯峨野を思わせ

るような雑木林に囲まれた風情のある店である。水車と石畳の小徑に包まれた庭園でお薄を戴いてから和室に移り、昼のミニ懷石コース「遊山」を堪能した。



(平成13年10月 小平 懷石 いろりの里 庭園にて 神田尚計)



(平成16年1月 根岸 豆腐料理 笹の雪にて 神田尚計)

二回目からは、安くて旨く、気軽に参加してもらえる店にしようと、森田さんと二人で店探しにとりかかった。住宅街の手打ちそばの店とか、家族でやっている隠れ家的な洋食の店などを探そうと、下見を口実にして、あちこち食べ歩き飲み歩いた。

私はビールが好きだったので、目的の店に近づく、ビールの泡が目交ひ(まなかひ)にちらつき、早く飲みたい一心でつい足早になってしまい、後から森田さんが駆け足

で追って来るといふ場面もあった。今振り返ると、二人とも結構楽しんでいたように思う。

厄介な会計と雑用はすべて森田さんが引き受けてくれたので、年に二、三回実施し六年ほど続けることができたが、私の足腰が変調をきたしたので、次の方をお願いしようと思った。なかなか引き受けてくれる人が居なかったが、平成十九年十月によく太田晴之助さんに引き継ぐことが出来た。

太田さんは、老舗の名店を選んで、その街の文化歴史、自然背景も併せ見聞するなど、熱心をやって下さったが、二十四年十一月に他界されてしまった。まことに残念でならないが、その跡は比護喜一郎さんが引き継いでくれて今に至っている。

郷土研究会

部会長 高橋 哲 男

東久留米稲門会に入会してまもなく、平成十三年四月に、高橋勤二代目会長の稲門会の活性化は部活動の強化であるとの方針により、当時も現役であったが、地元出身であることで郷土研究会の設立を強引に依頼され、部会長となつてなにもできず、今日に至った。

平成十三年十月東稲ニュース第二号に会の活動として、東稲ニュース紙面で郷土の

紹介、史跡、文化財の見学、講演会の開催等の指針をあげた。高橋会長や故中島宏さんとも相談したが、LEFT IT GOでスタート。

平成十三年十二月東稲ニュース第三号に東久留米市の地名の由来、第四号が東久留米の新春の行事、第五号で東久留米七福神を掲載した。

史跡、文化財の見学については、平成十四年十月二十七日(日)東久留米七福神巡りで市内五つの寺を参拝、平成十五年十一月九日(日)野崎三田会会長邸↓柳窪天神社↓さいかち窪↓村野邸↓うどん・たかはし↓南沢湧水↓竹林公園の八kmを完歩した。平成十七年十月十五日(土)は、南沢獅子舞の見学、平成二十年十二月五日(金)は、東京都水道局南沢浄水施設と自由学園、平成二十二年四月二日(金)は自由学園とお花見を見学し、平成二十四年二月二十六日(日)極寒の中を府中郷土の森博物館に行き、大國魂神社を参拝した。

一方、講演については、平成十七年六月五日(日)郷土民族行事「講」、平成二十二年十二月六日(日)「東久留米の歴史と文化」及び早稲田大学学徒練成部久留米道場、平成二十三年六月五日(日)「東久留米の歴史と文化パート2」を開催している。

このように忘れたころに一、二年置きに活動している。昭和三十五年にひばりが丘団地に今生天皇皇后陛下下の行幸があったが、その頃、小金井街道は、砂利道でバスに乗った妊婦が流産と悲惨なこともあった。一方南沢湧水群が、全国名水百選に指定さ



郷土研究会 (平成20年12月 自由学園にて 高橋哲男)

れたことはよろこばしいことであるが、それより透明度の高い小池が神明山にあった。また、家の前の道路は、落合川から水車へ取り入れの川であった。成美教育文化会館の近くには、タナゴがすんでいた。今後、

このようなことも郷土研究会のテーマとして取り組んで行きたい。

末筆になりましたが、早稲田大学及び東久留米稲門会の益々の発展と、会員皆様のご健勝を祈念いたします。

ウォーキング部会

部会長 東 海 俊 孝

この部会は当初、ボランティアで東京都全体のウォーキング行事の企画・立案・実施していた土屋久郎さんを部会長、久家政裕さんを補佐役に発足し、平成十五年六月十五日（日）、「水元公園と江戸川堤散策」ウォーキングで第一歩を踏み出しました。参加者は会員の家族を含めて十四名でした。

それ以降三ヶ月から四ヶ月毎に日帰り可能な首都圏の名所旧跡巡りを中心に土屋さんが企画・立案、土屋さんと久家さんが下見のうえ開催日当日に案内役を務めるという形で、平成十九年十二月二十八日（火）まで二十五回立案され、雨天で中止となった回を除き通算二十三回実施しました。二十六回目「山手線一周巡り 第一回 高田馬場駅～新宿駅」（平成二十年三月三十日）からは森田隆さんが部会長、久家政裕さんと帆角信美さんが補佐役となり、三人トリオで二十九回目「山手線一周巡り 第五回 目黒駅～大崎駅」（平成二十一年三月二十九日）まで実施しました。

三十回目の「山手線一周巡り第六回 大崎駅～品川駅」（平成二十一年三月二十九日）からは補佐役が久家さんから松崎博さんに代わり、それ以降森田さん、帆角さん、松崎さんの三人トリオで第四十四回の「小手指駅からトトロの森一号地と狭山湖へ」（平成二十五年九月十九日）まで実施され、今日に至っています。

その中でも、山手線一周巡りシリーズは土屋さんが部会長を代わる際に置いていつて戴いた企画で、早稲田大学のある山手線の高田馬場駅を起点に内回り線に沿って十五に区切り、十五回に分けて五年間にわたり実施しました。山手線周辺の名所旧跡のほとんどを見て回ることができ、参加者は相当都内通になりました。

平成二十六年に入り稲門会二十周年記念の四十五回（五月開催）「東久留米の湧水・清流の散策、村野邸の見学」から部会長を交代しましたが、これまで積み上げて来た実績を引継いで、ウォーキング部会を続けて参ります。部会は過去十一年間で首都圏の名所旧跡をかなり巡っていますが、首都圏にはまだ見ていない名所旧跡や隠れた名所旧跡などを探して新たな企画をつくり、これからも楽しくて新たな発見があるウォーキングを実施してまいりますので、多くの会員の御参加をお待ちしております。



ウォーキング部会（平成25年9月 北野天神にて 高橋哲男）

カラオケ部会

部会長 高 柳 康 夫

東久留米稲門会二十周年を迎え、心からお祝い申し上げます。特に、歴代会長、副会長はじめ、役員、部会長各位の多大なご努力に対し、衷心より感謝と敬意を表します。

「カラオケ部会」は、平成十四年三月、帆角初代会長の肝いりで、駅北口の「緒幕路」で呱呱の声をあげ、その後、河村、安次峰各部会長のご尽力により、年々磨きがかかり、昨年夏、伝統のバトンが渡されました。

この間、会場は、しばし、「シダックス」を根城としましたが、時代の波に浚われ、平成二十一年十二月からは、再び駅北口の「オンチッチ」を「ホームグラウンド」とし、何か懐かしい雰囲気、ホッとする憩いと安らぎの場となりました。

私は、平成十四年に稲門会に入会、まだラッシュに揉まれ、平日はもとより、土日も出張が入ったりして、早く「サンデー毎日」になり、何かに興じつつ、楽しい日々を送ることを描いたりしていました。

そんな折、アテネオリンピックに沸いた平成十六年八月、「シダックス滝山店」(現在はドラッグストア)での部会に初めて参加、おそろおそろ入ってみると、歌もさることながら、先輩後輩年次を超えて、お互い楽しく歓談、心身ともにリフレッシュ、他では味わえない爽快な気分になりました。明日への英気を養うことができました。



カラオケ部会 (平成 25 年 12 月 オンチッチにて 高柳康夫)

数年後、時間を弄ぶ日々が訪れ、何かの部会に参加できると思っていました。時すでに、体力、気力、知力いづれもままならず、気がつけば、「カラオケ部会」だけがほぼ皆勤となっていました。

皆様方の中には、卒業されても新たな門をたたいて上達される方もおられますが、わが事顧みれば、気持ちはあるものの、なかなか捗らず周回遅れとなってしまう。当部会は、文字どおり「楽しむ会」です。で、歌の巧拙は関係なく、そのうえ、ご発声は健康にも良く、お気軽にご参加いただければ、どなたでも、北口のホームグラウンドに足を運んでいただき、みんなで声高らかに「都の西北」を歌いつつ、今後のいやさかに繋げていきたいと思っています。

早慶戦観戦部会

帆 角 信 美

この会は、稲門会創立後すぐに、早稲田大学の野球部に所属していた太田晴之助さんが、春と秋に神宮球場に行つて早稲田を応援しようと提唱して、第1回がスタートしました。

当時早稲田の野球部は平成四年(早慶戦九十周年)秋に優勝して以降低迷を続け、チーム最悪のシーズン八連敗を喫するなど苦難の時期にありました。それにもかかわらず観戦会には多くの会員が参加してくれ

部会の20年

ました。

卒業以来神宮球場に行くのは初めてだという人も多く、球場が様変わりしているのと観客の少なさに驚いていましたが、試合が進んでいくにつれて学生時代に帰り、学生と一緒に懸命に応援していました。その後大学側のでこ入れが功を奏し、二十一世紀に入ってからチーム力が一段と向上、和田、鳥谷、青木、比嘉、由田、田中ら有力選手らを中心に平成十四年春から部史上初の四連覇を達成、平成十五年秋には部史上初の十戦全勝優勝を達成しました。

早稲田は何度目かの黄金期を迎え、観客動員数も鰻登りに増えて、一般内野席は常に満席の状態、席を探すのに苦労するほどでした。その頃には観戦会の会長は太田さんから森田隆さんに代わり、観戦日も春秋の早慶第1戦と決まっていました。平成十九年に甲子園球場を沸かしたハンカチ王子斉藤のほか大石、福井など有力選手がごそっと入学しました。東京六大学野球の人気は一気に沸騰しました。若い女性がハンカチ王子らを見ようとどっと神宮球場に押し寄せました。私ら定例観戦者は球場に入っても席がなく、最上段の通路に立って観戦するほどでした。

平成十九年は早稲田大学創立百二十五周年の年で、斉藤、大石、福井の三本柱が活躍して春秋連覇を果たし、記念の年に華を添えました。斉藤らが活躍した四年間は観戦会参加者も増えましたが、どういう訳か第一戦はよく負けました。斉藤らが卒業したあと学生野球はちよつと下火になりましたが、平成二十四年には甲子園球場を沸か

した吉永ら日大三高勢が早稲田や慶応、明治などに入学し、斉藤時代には及ばないものの、再び人気を回復しています。

観戦会は参加者が一時に比べぐんと減りましたが、少なくともこれからも続けていきます。なお、ずっと観戦会を支えてくれた太田晴之助さんが一昨年亡くなりました。太田さんに感謝の意と哀悼の意を表します。



校旗

(写真提供：早稲田大学校友会)

諸芸術鑑賞会

部長 菱山 房子

「もう二十年」と思わず問い返す程短い年月に感じられる。第一回総会では誰一人の知己もなかったが早稲田の校友同士ゆえか自然と会話も弾み親しみを感じたのを今でも憶えている。

その時々顔々の多くの方々は今は大切な友人である。以来沢山の行事に参加し、なんと楽しい時間を共有してきたことか。初めての鎌倉観光に始まり四季折々各種の楽しい行事が企画実行され数多くて列挙できない。しかし何といつてもこの会の要は各部会の活動であろう。年々部会の数も増して来た。東久留米稲門会は他にはない女性部会があるのも嬉しい。何時でも何でも話せる大人の付き合いができる老若男女の愉快な仲間達である。

二十年と改めて思うと初代安宅会長が築かれたよき気風、礎が二代三代・・・と受け継がれ進歩しながら今日に至っていることは感慨深い。私自身が関わって来た芸術鑑賞会について述べると、同会は第四代故市川英雄会長の提案で発足した。市川さんは歌舞伎、映画、音楽等々に造詣が深く、読書量も多く実に教養深い方だった。同好の方々との交遊と鑑賞を目指したが実際には希望者との連絡とチケット発売時期との整合性を取り難く充分に実現できなかった。そこで近隣の会場で会員が参加し易い催物を選び第九回まで重ねて来た。

第一回 日本フィル交響 ショパン「ピアノコンチェルト」、ベートーベン「交響第七番」他

第二回 日本フィル交響 チャイコフスキー「バイオリンコンチェルト第六番」他

第三回 中村絃子 ピアノとトーク「展覧会絵」

第四回 ソノス ハンドベルアンサンブル「鐘の音とクリスマスソング」

第五回 千住真理子 バイオリン（名器ストラディバリウスによる演奏）

第六回 早大交響 ニューイヤークンサート

第七回 早大交響 ニューイヤークンサート

第八回 早大マンドリンクラブ百周年記念（於 東京文化会館）藤原歌劇団との共演

第九回 早大交響 ニューイヤークンサート 新春恒例のワルツ他

毎回二十名程の参加があり会員と家族を含めての親睦の機会になればと思っています。この年月多くの校友の方々と巡り合うことができた。どなた共早稲田という文化の中で多感な青春時代を過ごしたからなのか親しみ、話題も尽きなかった。自由な意見の交換、現代には大切な情報交換の場もあった。これは学窓を同じくする者の学縁というものだろう。その上、居住地域を同じ者同士の地縁もある。思えば晴れの日はかりではなかった。慶びの日も悲しみの日も時には共有して来た。私は稲門会という学縁を今ではたいへん大切に思っている。



旅行同好会

部会長 井坂 宏

東久留米稲門会二十周年おめでとうございます。当旅行同好会は諸部会の中で最も新しく平成二十四年に創設されました。以来、春秋の年二回同好の士が楽しい旅行を満喫して、今までに四回の旅行会を開催しています。

記念すべき第一回は

平成二十四年 五月 二十二日、二十三日に会員の神田さん、松崎さん、比護さん、ふる里である松本、安曇野の一泊バス旅行を行いました。松本では松本城、旧開智学校を、安曇野では大王わさび園、穂高神社を見て新穂高温泉に一泊



2013.

旅行同好会（平成25年6月 丸沼高原にて 井坂 宏）

しました。翌日は長野の善光寺をお参りするという日程で、参加者全員がバス旅行の楽しさを満喫しました。

参加者：藍原、安次峰、鮎貝夫人、井坂、大島、

太田、神田、酒巻夫人、東海、比護、

菱山、平山、松崎、森田、米光

第二回は平成二十四年十月二十五日、二十六日、東北応援旅行と称して東日本大震災で被災した松島、南三陸町を訪れまし

部会の20年

た。震災及び復旧の現状をこの目で確かめたいということ、行くこととそこでお金を落とすことで現地の人々を元気づけ復旧に少しでも役立ちたいという思いでしたが、バスで被害の状況を案内してくれた現地のボランティアガイドの方が最後に「来てくれてありがとう」と言った言葉が印象に残っ



旅行同好会（平成25年11月 鶴ヶ城にて 井坂 宏）

た旅でした。

参加者：鮎貝、井坂、大島、高橋（哲）、東海、

新見、菱山、平山夫妻、松崎、森田、

米光

第三回は平成二十五年六月十六日、十七日に上州の秘湯鎌田温泉に泊まるバスの旅でした。沼田から尾瀬に向かう沼田街道に沿ってひっそりとある温泉に一泊して、次の日は日光金屋ホテルで昼食をし、久しぶりに訪れた吹き割の滝、湯滝、華厳の滝の日光三滝の荘厳さに圧倒された旅でした。

参加者：藍原、安次峰、鮎貝夫妻、井坂、大島、

酒井、酒巻夫人、高橋（哲）、東海、

長谷山、濱中（太極拳）、比護、平山、

松崎、森田、米光

第四回は平成二十五年十一月、東北応援旅行第二弾として晩秋の会津の旅でした。五色沼裏磐梯を経て会津若松の奥座敷東山温泉に一泊し、翌日は鶴ヶ城、飯盛山、喜多方、大内宿を巡るバスの旅でした。今回は前回参加された女性陣が楽しかったという口コミで七名の女性が参加されました。

参加者：藍原、鮎貝夫妻、井坂、石寺、神田

夫人、酒井、酒巻夫人、長谷山、比護、

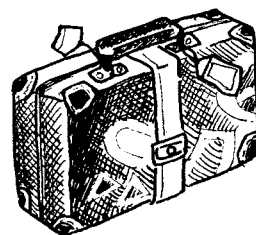
菱山、平山夫妻、帆角夫人、松崎夫妻、

米光

以上平成二十五年までに四回の旅行会を実施しました。一度参加された方は楽しかったと言って次回からは特別な予定がない限り皆さん参加されています。また、第四回の旅行では女性の参加が増えましたが、この傾向は今後も続くことが期待されます。

このように一度参加したら抜けられない

という楽しい旅行です。今まで参加されていなかった方も一度参加されてみては如何ですか。



映画鑑賞会

部長 米 光 慶二郎

当会二十周年記念、おめでとうございます。と同時にこの喜びをひとえにみんなに分ち合いたいものです。

私は当会員に加入して十二年になります。が、実は東久留米の住民でなく、隣接新座市民で、云ってみれば番外地からの越境者で、多分に引け目を感じていた訳です。それだけに何か役に立ちたいと常々思っていました。

先ずは推薦者の手前（太極拳）から始めました。と同時にその頃から高橋さん（二代目会長）と菱山さんが中心になって「映画鑑賞会」を公共性と市民に貢献できる事業として「市民ホール」を使い無料で開催されていました。

作品の内容も吟味され、早稲田が持つ「知性」と「大衆性」のある映画が選ばれていました。当初は知名度の低さから若干動員力に欠けていましたが手応えは十分あったようです。私も映画のことなら少しはお手

伝いできると思い参加しました。出番は六作目でした。私が中学時代に観て好きだった「誰が為に鐘が鳴る」を上映しました。七作目以降は市民の声を反映させようと「哀愁」「心の旅路」など五作品を取りあげました。そのお蔭で年配の良質な女性群に支持され、その都度盛況になりました。

第十四回目は始めてイタリア映画、S・ローレンの「ひまわり」を取りあげました。あまり期待をしていませんでしたし、その日（八月五日）三十五度を超す真夏日でした。ところが猛暑にもかかわらずお客様が続々と集まり長蛇の列ができました。市民ホールは、補助席を追加しても百五十席。役所から禁止されている立見を何とかお願いして三十名程度人口附近まで積み込み、まさに満員電車並でした。それでも五十名程度入れず炎天下に帰す結果になりました。

これを機会に今後の対応を検討していた矢先に「成美教育文化会館」より共同主催の依頼があり、検討した結果移行することになりました。公共性と稲門会の独自性は失われるものの「会場」は広く、設備、環境も充実しているのが魅力でした。以後、今日に至るまで約三十回程、安定した盛況さを維持することになりました。

その他に私が関わったものに雑学塾と称した（文化講演会）がありました。既に三十回（？）は、超えていると思いますが、当初は外部講師が決まらず稲門会内部の会員から調達し、約二時間の枠をもらって発表していました。

私は五回登場しました。映画関係が三回、

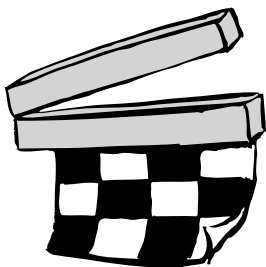
「シネマブラボ―」「映画の玉手箱―こぼれ話」「懐かしの映画音楽を聴く」（平山会長提案）でこれは左程苦もなく穴理的に実施しました。

そこで私は考えました。便利屋で満足してはいけません。私は映画だけの人間でない。そこで私は帆角会長にお願いして文芸（学）路線に挑戦しました。「松本清張の世界」「司馬遼太郎の世界」（松崎さんの風貌から発想）がそれで、多作家の膨大な未読な作品を読破しました。大変な時間と胃の痛むほどの作業でまとめあげました。

第三弾は「早稲田の五人を語る」と題して「坪内逍遙」「江戸川乱歩」「五木寛之」「村上春樹」（後は未定）を予定していましたが、気力、体力とも衰え断念しました。

想えば稲門会では「旅行の会」「ウォーキング」「早慶戦観戦」「秋のうまいもの会」等、色々と楽しい企画がありました。個人的お付き合い、アドバイスもありました。酒（サケ）で酔っぱらいご迷惑をかけたこともありました。すべてが良い思い出です。

一人暮らしで、孤独な晩年を過ごしていた私に潤いと元気を与えてくれた稲門会と会員のみなさまに深く感謝します。誌面を通じてお礼を申し上げます。



平成 17 年 12 月 講演会取材 北九州にて 米光慶二郎



大隈講堂と翔く白い鳩

(写真提供：早稲田大学校友会)



ありし日の東久留米駅 北口

(安次峰 暁)

東久留米稲門会二十周年記念

会員寄稿 (稲門会名簿順)

東久留米稲門会と私

川上 昇 一 記 (32政経)

「良い時に、良い会が出来た！」と二十年前、東久留米稲門会が設立された時に坂本信太郎先生が述べられた。この言葉とともに、私は、実に多くの先輩、友人に恵まれ、当初しばらく「散策、山歩き」の世話役を務めさせていただいた。

東久留米は奥武蔵、秩父、奥多摩方面等々への地の利に恵まれ、多くの会員の皆様と共に日帰り、大いに自然を満喫出来、足腰も鍛錬できたのではないだろうか。

当会には山歩きの先達の方々が多くおられ、日本山岳会の竹村鍔郎さん、俳句部部长を努められた橘正治さん、母校のワンダーフォーゲル部の立ち上げから参画し、国内はもとより、海外にも遠征し、七十才に入っても、オーストリアの最高峰グロースグロックナーに挑む等、登山人生をまっとうされた納見明德さん、以上お三方には殊の外、お世話になった。竹村さんには、ご自身が主宰されていた語らい会や、市民講座の「春秋山と文学」酒と山を愛した牧水と山頭火

など楽しい話を沢山きかせていただいたが、ご本人もまた山と酒をこよなく愛された。

橘さんには三ツ峠、三頭山、御前山など、多くの山歩きにご一緒させていただいた。また、ご夫妻、Hさん、K女史らとの横峠への山歩きも楽しいものだった。何より忘れられないのは、橘邸での春の観梅会、秋のお月見など。折々の季節の風情をこよなく愛された橘さん。二〇〇六年三月三十日満開の桜の中、闘病中の氏を病院に見舞った折、退院したら共に読んだ「文士のゴルフ」で、ゴルフ談義に花を咲かせましょう！と約束した。が、その二週間後帰らぬ人となった。療養中も常に前向きで、心優しい先輩でした。

納見さんには予てより、竹村さんに勧められていた桃源郷、山梨県小菅村を経て大菩薩峠までの一泊二日の山旅への同道を、Hさん、Mさんと共に、お願いした。これは正に、私の至福の旅でした。下山後立ち寄った「小菅の湯」、そば処「玉川屋」も懐かしい。納見さんは山から帰られると、必ず見事な写真を持参して拙宅を訪ねてください、土産話をたっぷり聞かせて下さったものです。楽しい時間でした。

ここに更に、もうお一方加えたい方が大田晴之助さんです。太田さんとはこの会の発起人同士でもあり、また同学年の誼でリクリエーション担当として、ゴルフ、野球観戦、山歩等々……会の運営など、互いに支えあってきた仲である。本当に人一倍、お世話になってしまった。

思い出すままに……会員の皆様とは鎌倉散策、妙義山麓へのバス旅行、昭和公園での

バーベキューパーティ、名栗湖周遊、そして大田さんの特別な計らいで出かけた東海村原発見学会等々、この二十年間の思い出は尽きることはない。

ただ、私にとってはこの間、会員の方々が一人ひとり旅したたかたことが、実に寂しい限りです。けれども皆様は今もって、私の心の中で生きて下さいます。

二十年間を振り返るとき、故人になられた方々のご冥福と、若い会員の皆様の方で、当東久留米稲門会が母校とともに、益々発展することを心より祈念いたします。ありがとうございます！東久留米稲門会！

稲門会入会の生き甲斐

福田 稔 (秀仙) (37政経)

私は五十八才で入会し七十七才になり、稲門会在籍二十年間になろうとしています。定年後何をして暮らそうか？当時ゴルフ狂いの楽しみとして、ゴルフ部会がある稲門会を選びました。稲門会ゴルフ部会の帰りの車中で、武藤書道家との出会いが書道部会に入部したきっかけでした。

二代目会長の「部活を強力に推進し、稲門会の発展に邁進」されておられた高橋勤会長、又栄田先輩の方々と書道、飲む錬成会を愉しみ、「成美会館での書道展覧会」にも楽しめ、伊豆地区等の小旅行に参加出来る事でした。

その間「東稲ニュースのポストマン」を依頼されギブ&テイクで続けています。

その内幼少時代から休まず七十年間書道活動されている同窓生に出会い、書道師範資格を目指し（九年間）武藤豊翠、吉竹荃秀、隸書の各先生の三方に師事、休む事も多く、づるづると諦めずに継続した事が「国際書画交流会の展覧会」「秀仙書道教室開き」と展開しました。

「東京都美術館での展覧会会場取得」審査に挑戦し、年々競争率は高まる一方ですが、何とかギリギリで合格し、稲門会書道部を主体とする展覧会を開催させて頂いています。東京都美術館での展覧会を企画、当初から武藤豊翠先生書道部会長、高橋松峰幹事と打合せをしながら継続して来ています。はえある「都立美術館」での展覧会を目標に書道部に留まって良かった、と感謝しています。その中で毅然として継続し、今後も書道活動に精励する積りで。

早大生時代4・5畳で共に暮らした安田武氏が先日、神奈川県秦野稲門会の十四年目の会長に就任した、学ぶに東久留米稲門会の二十年間の歩みの依頼を受けています、秦野稲門会に「書道部会開設」を期待しているところ。東久留米稲門会のメンバーとして、又若き血に燃えた時代を再現したい。

片や「障害者施設運営」にも力を入れて来ました。平成十九年には大門町の障害者施設（社会福祉法人森の会）のビル建設完成時、稲門会で市役所でのインタビューの機会まで設定して頂き、社会福祉法人組織となり、規模拡大し障害者（利用者）への

サービスの向上が図られました。その後の第二第三の施設建設・運営に繋がっています。市内前沢に「大型全自動焼きせんべい機」を導入した建設（大門と前沢で総人員数約百四十人規模）に挑戦し、都庁福祉サービス推進部の厳しい審査ヒアリングを受け、建築費の補助金を確保して、自己資金を何とか捻り出し、昨年二十五年十一月に竣工しました。障害を持つ成人が共に頑張れる「最大のサービスを提供できる施設」にしたく都庁、市役所の指導の基、定年後平成十二年障害者施設（社会福祉法人森の会）の理事長に就任し、十四年間障害者と共に働き勤しんで来ました。

私が定年後地域の為に何が出来るか？建築・土木施工管理技士の経験を生かし、障害者とそのスタッフが喜んで働ける建物を提供出来、又、経営運用面でその一端を提供出来、益々の発展を願っています。稲門祭等には美味しいと定評のある「せんべいの市場拡販」にも協力して頂いています。売上収入は障害者に分配されます。人との摩擦は当然あるものと覚悟して、之に向かい、対応し、切り開く楽しみとして心身を鍛えたいと思っています。

稲門会書道部会を楽しみに、主たる「生き甲斐」の一つとして継続し、大隈重信拝の寿命百二十五才説に少しでも近づき、障害者施設貢献と書画研鑽に努力したいものです。今東京オリンピックに向け海外の方々への「おもてなし」として「憩いの書画展」を具体的に企画する事を最重要テーマとしています。皆様方のご協力を切に願ひ上げます。

俳句と私

川俣栄一（28理工）

理工学部卒の私は仕事を持っていた頃、万葉歌や芭蕉の句を多少は口遊（ずさ）むことはあっても馴染みは薄かった。定年を迎え東久留米稲門会に入って暫くした或る日、俳句部会の親しい友から榛名温泉郷吟行の話があった。当時先妻を亡くして独り暮らしの私を氣遣つての誘いである。俳句に深い親しみを持ち合わせていなかった私は、多少逡巡したが、観光を兼ねて参加することにした。平成十八年十月のことである。

榛名に着き乗り換えた送迎バスの窓から湖を隔てて見える榛名富士は、僅かに紅葉して美しかった。自信は無かったが景色に触発されて句作した。

「湖越しに榛名の嶺の薄紅葉」

これが並み居る先輩諸兄姉に思わぬ好評を博した。所謂ビギナーズ・ラックというヤツか。すっかり気を良くした私は、迷わず正式に俳句部員となり、月一回の句会にも積極的に参加したがうまくいかない。こんな或る日、当時の部会長だった故橋正治氏が、句作に必要な書を数冊紹介して下さい。

早速購入し読んでみた。俳句とは伝統の型を通じて日常に新たな感情を見いだすもののように。よく知られているように

五七五の定型や季語のほか、写生と取合せとか省略とデフォルメなどがあって難しくかつ奥深い。句会には通常兼題というものがあって、これに添った発句が求められる。数年前の正月の兼題は「初明かり」であった。

「ざわめきが祈りに変わる初明かり」

また季語には著名人の忌日が多くある。太宰治の忌日は「桜桃忌」といって六月の季語とか。これが兼題の時は次の句を投句した。

「我が青き懊悩の碑や桜桃忌」

当句会では春秋二回の吟行がある。一昨年の春の吟行で深川にある俳聖芭蕉翁の句碑を訪問、その時の作は次のようなものであった。

「俳聖の句碑覗き込む夏帽子」

以上、私の未熟な俳句をご披露することになった。こうした俳句との出会いに相前後して、縁あって迎えた後添えとの新たな生活の中、句作を推敲したりしていると、お互いのアバタもエクボに見えるから不思議だ。

これからも句作を友として楽しいシルバーエイジを過ごしたいと思っている。



双葉山と私

呉 淳久(60教育)

私は博物館に勤務している関係上、日本の伝統芸能にかかわる機会が多いのですが、能・狂言、歌舞伎をはじめ素晴らしいものが多く存在します。ただ普段気軽に接する人がどれだけのいるのか、またあまり知られていない伝統文化等も少なからずあることを考えると日々残念に思うことも多々あります。

そういった日本の伝統文化の一つとして大相撲があります。多くの外国人が来日することが見込まれる二〇二〇年の東京オリンピックは、オリンピック招致の是非はともかく大相撲を含めた日本文化を日本から世界へ、世界から日本へ深く知ってもらうためのビッグチャンスだと思っています。

ところで私の大相撲好きは筋金入り？ですが、私が一番敬愛する双葉山の話をしたいと思っています。双葉山といえば横綱白鵬が尊敬している力士ということで知っている方も多いでしょう。天才という言葉は現在あまりに安易に使われていますが、双葉山は大相撲界が生んだまさに不世出の天才力士といってよいでしょう。それだけに双葉山は神格化して伝わる話がほとんどです。しかしながら、私自身そういった双葉山より人間としての双葉山にひかれる一人です。双葉山は幼年期よりまさに山あり谷あり、生死と隣り合わせの人生を送りました。幼

少期での母親、妹との死別、右目の失明、右手小指の第一関節の切断、船での仕事での遭難事故など、死と向き合った幼少の経験としてはあまりにも大きな困難が双葉山の人生観に大きく影響したようです。また双葉山は近寄りがたい寡黙な人だと思われがちですが、親しい人に対するおしゃべりでよく笑う姿、双葉山の周囲に登場する年上の女性に対する甘える姿、意外に涙もろい泣き虫の姿等、あったようです。

どれも本当の双葉山の姿であったはずですが、作家の工藤美代子さんが以前「双葉山はママの坊や」という本を出版されましたが、まさに双葉山の本質を突く題、内容であるのでぜひお勧めの本です。

ところで、「双葉山自叙伝(昭和十六年刊行、当時現役力士の自叙伝は珍しい)」のなかで、双葉山が出た大分津部小学校の校歌(旧校歌であるようです)が早稲田大学の校歌の歌詞とそっくりであることを稲門会の講演の中でも一度紹介いたしました。なぜそっくりであるのかはここでは別の機会に置きますが、一番の疑問はなぜ自叙伝の中に小学校の歌詞をわざわざ掲載したのかということですが。その謎は双葉山の人生を振り返ってみると実は鮮明に浮かび上がってきます。双葉山自身故郷に対する敬慕の念が強かったこというまでもないですが、その故郷への敬慕の背後にあったものは、なき母親に対する敬愛の情にほかならないと強く感じます。大分に住む双葉山をよく知る近所の人の話に、幼少の双葉山が小学校1年生になっても母親のおっぱいをすっていたという逸話がありますが、

先述した工藤美代子さんの著作の題名「双葉山はママの坊や」そのものではないでしょうか。みなさんの双葉山像はどのようなものでしょう。

駄句の楽しみ

三田 三(33政経)

六十八歳で全ての仕事から解放され無職となりました。さてこれからどうするかと思っているとき東久留米稲門会の存在と色々な部会があることを知りました。高橋会長のおかげです。何人かの人から俳句部に入らないかと勧められ、入会させていただくことになりました。その時の部会長は橘正治「雅契」さんでした。橘さんには会員一人一人の句について懇切丁寧な解説と心のこもった温かい評価で俳句の面白さを教えて頂いたように思います。

以後毎月五、七、五を並べてきましたがその中に俳句と言えるものが果たして幾つあったのか、甚だ疑問ですが四季の変化に恵まれた日本は何と美しい言葉に満ちていることを俳句を通じて今更ながら実感できたように思っています。

先ず春夏秋冬にはそれぞれ色が付いています。春は青春、夏は朱夏、秋は錦秋、冬は玄冬。月々となると睦月、如月、弥生、卯月と続き、更にこれを二分して二十四節季

に分けると、ここにも春は啓蟄、春分、清明、穀雨と、動植物も人の営みも含めた自然界の推移を表現した美しい言葉の連続に出会えます。

これらの素敵な言葉の数々は全て俳句の季語でもありその数約一千、全て歳時記に記載され、その詳しい説明から例句まで掲載されています。夜中に目が覚めて寝付けない時などの暇つぶし読み物としても好適です。俳句の改革者であり、この道の大家達である子規が、俳句は五、七、五の組み合わせだから百年後には廃れるだろうと言ったらしいが、今や世界中で流行、日本の俳句人口は何と数百万人とか、こうなると日本中の俳句結社や同好会、吟行句会などで誕生する新しい句は一日に何万句、ひよつとすると日本のどこかで全く同じ五、七、五が誕生しているかも知れません。

駄句ばかり作っている身にはそんな想像も楽しみの一つですがせめて一句ぐらい美しい日本の言葉を縦横に駆使して、うつくしい俳句を詠んでみたいものだと思わぬ夢をみながら五、七、五を並べています。

ど存じですか？

山崎敬雄(31政経)

ご紹介したい本がある。土佐出身の百人の言葉を紹介したもので、その中に東京専

門学校開校時の小野梓先生の挨拶が紹介されている。このお話は、いつか皆様にご紹介したいと思っていたところ、はからずも今回とてもいい機会を頂いた。とりあえずその部分をご紹介します。

小野 梓 国民精神の独立は、学問の独立による(原文のまゝ)

明治十五年、早稲田大学の前身、東京専門学校が大隈重信を中心に創立され、開校式が盛大に行われている最中、小野梓は代表して「一国の独立は国民の独立を基にし、国民の独立は精神の独立に根ざす。そして、国民の精神の独立は学問の独立によるもの」と挨拶し、学問の独立の不可侵性を力説した。世に知られる「**学問の独立**」宣言である。

実は創立者の大隈は、この信念を自らも実践するため、立憲改進黨の党首で、政治色の強い自分は開校式に出席せず、実質的な学校設立功労者の梓に、志を託して挨拶を任せただった。

明治維新後の激動の時代、私立学校が政治思想と結びついて大きな原動力を生むこともあり、政府にとつて、反政府活動ともみえる大隈の学校創立はまさに脅威であった。

一方大隈、梓らにすれば、創立には学問への純粋な志があり、したがって懸念を払拭するためにも、その思いを広く明確に告示する必要があった。

そこで発せられた梓の「**学問の独立**」宣言は、開校式という晴れの舞台で学問の無垢で無限の魅力を明快に誇示したもので、

この簡単なフレイズは以後、政治権力などのあらゆる圧力に対する盾となり、今も全国の学舎を守り続けている。

早稲田大学では、大隈を建学の父、梓を母と慕い、校内には両者の銅像が建立されている。

※「伝えたい土佐1000人の言葉」

二〇〇四年 高知新聞社刊より

★ ★ ★ ★ ★

このエピソードでは、「独立宣言」もさることながら、大隈公がこの開校式に出席されなかったところが面白い。

老公は「・・・デ、アルンデ、アルンデ、アル」の名？調子と、イギリス大使パークスを相手にした時のように硬骨漢であるが、一面シャイなところが見てとれる。

そして、何よりも東京専門学校が世間の荒波にさらされず、無事成長することを心底願って、開校式に出席されなかったのではと思うと、その親心が心に沁みる。

老公に親しみが持てる所以であろうか。

今一つ、老公は自分の書いた文字が後世に残ることを嫌い、火鉢のお灰にしか文字を書かなかったというエピソードがあり、これも同じ人かと思うと微笑ましい。老公の「への字の口」はそのシャイなところを隠すためだったろうかなどと懐かしく思い出している。

残念なことは、小野梓先生の銅像が、大隈庭園から二十七号館へ移されたこと。大学関係者は、いささか大学の歴史を誇りを持って後世に伝えていただきたい。

■おの・あずさ（一八五二―一八八六）

現在の高知県宿毛市生まれ。明治維新後、イギリスなど欧米へ留学し、帰国後官職について会計検査院の礎を築くが退官し、大隈重信とともに立憲改進黨の結成、現在の早稲田大学の創立に尽力、教鞭も執った。執筆にも精力的で『国憲汎論』などを著したが、三十三歳の若さで他界した。

■「高知新聞」

一八七七年、板垣退助の「立志社」の機関誌「土陽新聞」がその前身で、二〇〇四年は高知新聞の創刊百年目にあたっている。

戦中・戦後の体験

安藤 信雄（26文）

私は、昭和十九年四月に専門学校に入學したが間もなく学生にも「勤労動員令」が布かれ、私は立川の航空工廠で重量兵器運搬に従事した。

日ごとに空襲が激しさを増し、ある日の休憩時に空襲警報のサイレンが鳴り響き、米軍機が編隊で来襲した。その中の一機が

弾倉を開いたのを将校が見つけて大声で叫んだので、皆一斉に地に伏せると、ザザザ一つと大気を切り裂く轟音とともに民家の近くに着弾し、爆弾の破片が飛び散り、ものすごい土埃が舞い上がった。ほんの数秒の差で助かったなあ、と皆で喜び合った。

翌年の夏、航空工廠が青梅の山中に疎開し、仕事は兵器の鋳打ちに変わった。食事は一汁一菜で、コウリヤン入りの赤いご飯と青菜の味噌汁、少しの佃煮。弁当には味噌の小さな固まりがついているだけだった。風呂はなく、「体を洗いたい者は川で泳げ」と言われた。

空襲が次第に激しくなり、主要都市は次々に焦土と化した。三月十日の東京大空襲では波状攻撃を受け、一般市民の犠牲者はおびただしい数に上り、特に本所、深川の惨状は目を覆うばかりであった。

昭和二十年八月六日、八日に広島・長崎に原爆が投下され、さらにソ連の参戦により、日本は窮地に追い込まれた。

八月十五日正午の玉音放送によって国民は敗戦を知らされた。学徒たちは、敗戦の悔しさをかみしめつつも、自由にもが言える解放感にひたりながら、各自帰途に就いた。戦時中の灯火管制も解け、明るい夜になり、みんなにも笑顔が戻った。

家族は、東京に残った者、郷里に疎開した者、学童疎開した者と、散り散りだったが、十一月頃ようやく、全員揃うことができた。食糧事情は極度に悪く、主食は少量の配給米とさつま芋だったが、それも十分とはいえなかった。つてを頼って買い出しに行

くので、学校側も理解を示し、自主登校の措置を講じてくれた。

あちらこちらに闇市ができ、お金さえ出せばいろいろなものが入手できたが、銀行預金の封鎖等もあり、庶民は切り詰めた生活を余儀なくされた。しかし、戦時中を思えば楽なものだった。

上野の地下道には、学童疎開から戻った子供たちが、家族も戻る家も失い、戦災孤児となつて、着の身着のまま大人に混じって座っていた。いまでも地下道を通るとき、当時の情景が脳裏によみがえり、胸に迫るものがある。

いま、齢八十半ばとなり、稲門会の方々と親しく交わり、楽しい日々を過ごせるのも、非戦の誓いをした日本だからこそで、多くの犠牲の上に築かれた平和であることを忘れてはなるまい。

早稲田雑感

河村 洋子（41教育）

「花は桜木男は早稲田」の幟を初めて目にしたのは、昭和三十七年春の早慶戦第一戦の時である。戦後十年位の頃の民主主義という洗礼を小学校教師から受けていた私にとって、その言葉に非常に違和感を覚えたのを今でも鮮明に思い出すことができる。「花は桜木」というと、右翼的な感じで、共

学なものになぜ「男は早稲田」なのと思ったものである。この幟は、数年前の早慶戦でも見かけた。平成の世になつてもこの言葉は、生き続けているのだ。

早稲田精神研究会というのもあった。この会は今も存在しているのだろうか。私の在学当時は、男子は学生服よりもスーツの方が多かった。けれどもその会の人達は、いつも制服を着、学帽を被っていた。早稲田精神で思い浮かぶのは「在野精神」しかない。それ故、早稲田には一匹狼的な人が多出したのかもしれない。「花は桜木・」も早稲田精神の一環であるのだろうか。

昭和三十六年頃、早稲田の文学部の某教授が「女子大生亡国論」なるものを唱え出して世間を大いに賑わせた。五十年以上も前のことなので、その記憶は定かでないが、なんて時代錯誤で女性を蔑視している。日本はまだまだ男尊女卑の時代なのだと思つたことを憶えている。戦前は男子学生中心の学校に、女子が続々と入学してくるのがお気に召されなかったのかもしれない。今だったら田嶋陽子氏にかみつかれるだろう。とは言うものの、当時の女子の大学進学率は一割であつた。政経、法、商、理工学部には一学年数名の女子しかいなかった。女子が多くを占めたのは、文、教育学部の国文、英文学科である。私のクラスには女子が六割もいて男子を圧倒していた。昭和の終わり頃になると、文、教育学部以外にも多数の女子学生が入学し始めた。素晴らしいことである。

「ワセ女」という言葉が、世間に飛び交う

ようになったのはいつ頃からであろうか。「慶女」「明女」などは聞いたことがない。どうして早稲田の女子学生、OGだけが「ワセ女」と呼ばれるのだろうか。「羨望」それとも「皮肉」。私は後者を採る。

「ワセ女」としてもう一つの違和感は、第二校歌と言われている「人生劇場」である。「吉良の仁吉は男でござる。俺も生きたや仁吉のように」の件には、ものすごい抵抗感がある。どちらかと言えば左派の学生が多かった。それなのに歌ではやくざを礼賛する。このアンバランスにはついて行けなかった。こう感じていた女子学生は私一人ではあるまい。

親の猛反対を押し切つて入学した早稲田を卒業して来年で五十年になる。クラスメイト、サークルの仲間と会えば気分はいつも学生時代のまま。かけがえのない友をたくさん得ることができた。夫を亡くした時に私を慰める旅行を計画してくれたサークルの仲間。十六年を経た今でも年に一度の旅行は続けられている。

最後に忘れてはならないのは東久留米稲門会の存在である。入会して十六年が過ぎようとしている。ここでも、先輩、後輩と多くの方達との絆ができた。手弁当で創立のための活動をして下さった有志の方々のご苦勞は、並々ならぬものだったに違いない。

人生も残り少なくなつた身にとって、稲門会の方達と美酒を酌み交わすことがいつ迄できるだろうかと考え始めている。

創立二十周年を迎えるにあたって、創立にお力を貸してくださった方々に心から御

礼申し上げます。また、これからの十年に向かって、皆様と楽しく少し知的な稲門会活動ができれば良いなと思っております。

一瞬の眠り

杉本達夫（早大名誉教授）

早大に在職中、わずか数度のことではあるが、授業中に眠るといふ体験をした。ぐうぐう眠るのではない。ほんの束の間、傍には気づかれぬ程度に眠るのである。テキストを手にはしゃべりながらゆっくり歩くうちに、突然すうっと眠りに吸い込まれ、何も分からなくなる。そして、はっと気づいて、さあらぬ体で先を続ける。当然ながらその間は目を閉じ、口も足も止まっている。それが二秒なのか三秒なのか、自分では分からない。けれども学生諸君が怪訝な表情を浮かべていないから、誰も眠りとは気づかず、「思索」ゆえの沈黙と受け取ったのかもしれない。わたしはよほど疲れていたのだろうか。たしかに、よほどではないが疲れていた。大学には把握しがたい緊張と忙しさがあつた。

退職まで残り数年というころになって、文科省系のある機関から、一週間のどのように使っているかを尋ねる調査票が送られてきた。月曜から土曜までの一日ごとに、授業、授業準備、学生指導、会議、研究、

食事、交通……など、実際の行動に即して時刻を刻み記入した後、もう一度見返して愕然とした。平たく言えばぎよつとした。「研究」の時間があまりに少ないのである。教員は研究と教育を行うのが仕事であるが、職種の分類からいえば研究職なのであって、一義的に研究者でなくてはいけない。なのにこんな時間配分でよいのか。といって何が削れるというのだ。授業期間中は無理なんだと悟りますのはたやすいが、それではあまりに情けない。実際、成果を生むひとは生んでいるのだから。

いつのころからか、「研究せえ、研究せえ」「業績上げえ、業績上げえ」という天の声が高くなり、研究活動の様態も変わり、その一方で、研究の足を引っ張る「雑用」がふえた。いわゆる雑用は情報機器の進化、制度の変革とともに増大してゆく。わたしは大学のいまを、ひそかに「教員消耗品化の時代」と呼び、いまを創る現職諸君に敬意と同情を覚えている。わたし自身の研究実績は、赤面の至りでしかない。研究職にありながら、職に見合う仕事をしていないという自覚が、強迫観念のように、つねに後頭部に貼りついていてた。三割打者に囲まれていると、二割打者は事ごとに腰がひけるものだ。それが気づかぬ緊張を強いていて、一瞬の眠りを誘ったのかもしれない。

退職後はほぼ自動的に、名誉教授の称号を頂戴している。名誉とは、もちろん私にとつての名誉である。ボケて名誉が不名誉に転化せぬよう、心するのも責務であらう。

もったいない

榎本隆司（早大名誉教授）

祝慶

創立総会へ向けての最終委員会。「本庄」の学院長兼務で全く時間が取れず、ご無沙汰続きだったので、隅っこに控えて進行を見守った。

会長候補に一同が安宅さんを推した。そのまま決まるはずのところ、「いや、・・・」とご本人が遮って、先輩だからと、どなたもご存じないわたしの名を挙げた。「飛んでもない！」と即峻拒したことで衆議一決したわけだが、わが稲門会の二十年の発展は、評議員として大学の事情に通じていた、この初代会長の誕生に帰するところ大だと思っている。その夜わたしは、「政治」を持ち込まないことと、世話になる東久留米市（民）への貢献を思い、発会式に稲葉市長を招くことを提言し、容れられた。

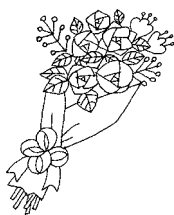
歴代会長ほか、役員・部会長らの皆さんが本心に心してリードし、お世話・ご尽力下さった。深い敬意と感謝を申し上げる。そして、これに明るく協力してきた全会員とともに、全国校友会の中でも、最もいいと言うに足る活動をし、集まりを持ってきている事実を自負・再確認し、りっぱに二十年の歴史を刻んできたことを誇り祝福したい。

「二十歳の青春」といい、「エチュード」と

言う。大きく夢を描きつつも、「大人」へのさまざまな課題を負う歳ごろの大事な節目。成人式になぞらえては「無礼だが、はて、わがお仲間方は、何回目の「成人式」を迎えられたのかナと思う。不躰な言をお許しただけなら、会の大きな節目を機に、あらためてそれをおのがメルクマールとして成長を重ねることが、多士済々の会員諸賢とともに在る、ひとり一人の今日からの楽しい課題になるのだろうかと思考する。

時代は内外ともむずかしい状況を迎えつつある。杞憂に終わることを念じながら、少なからぬ危惧を、教育再生実行会議の座長をつとめることになった鎌田総長に伝えたところ、歴史に汚点を残さぬよう「一意専心」努力する、との力強い返書を得た。

高齢化社会が進む中での問題も山積・続出している。多くの智慧と力が動員されているが、わたしは、はやくから、わが稲門会のすぐれた総智を、より広く、深く、活用し、顕現できまいかと思ってきた。個々の努力、貢献はそれとして、それを支え、促している豊かなワセダの力を、なんとか、明日の時代のために活かせまいかと願っているのである。僭越ではあるが、「老いのくりごと」ではないつもりである。二十周年記念のお祝儀として考えられまいか。もったいないのである。



定年までの仕事の話

馬場清彦（28法）

大学を卒業して「日本飛行機株式会社」（日飛）に入社した。営業部で自衛隊の航空機が損傷したり不具合等、修理業務が発生したりすると、技術者を同行して見積もりや入札をして、契約までして行くという仕事内容。その間隙を縫って体操競技の試合に出させて貰った。

勿論練習は退社後である。横浜から西早稲田にあった体育館に急いで一時間半かけて毎日通った。十三年間お世話になった「日飛」を円満退社。このままサラリーマンとして生きてゆく事に疑問を感じ、自分で起業したいと思うようになった。

早大で同学年の友人と意気投合し、全くの未知のジャンル、PR界に飛び込んだ。三井、富士、勧業各銀行を相手に「株式会社 開発PR社」を立ち上げた。折からのコンピュータブームで、銀行のオンライン化によるパブリシティ業務に伴い、派生する仕事一切を請け負う媒体・企画・印刷・ノベルティー物の製作などを行った。かれこれ8年間ほど情熱を持って働いた。

しかし実業の世界とは違い虚業の匂いのする業界に、少し嫌気がさしていた頃、早稲田大学の先輩教授から体育局で授業を受け持て欲しいし、目下二部で低迷している体操部の復活にも力を貸してほしいとい

われ、その気になった。PR社は監査役の名前だけ残して早稲田大学に奉職し、元より好きな体操を監督までやることになった。頑張りました。

七十歳定年で早大を退職。PR社も退いた。喫茶店「B」

七十歳で毎日が日曜日となり好きだった俳句三昧に過ごしていたが五年もたてば娘の深雪（昭和五十八年早大文卒）から「あんまりボーッと生活していたら認知症が早まる」との忠告があり、妻と相談して七十五歳から喫茶店を始めることとした。

店舗のことを調べていたら、手ごろな物件がみつかり東村山市の市役所前に十坪の店を改装して開店した。喫茶店の名前は「B」と命名。馬場のイニシャルとB級グルメをもじったもの。いざ喫茶店を開きマスターとして、のんびり商売するつもりだったが、それは甘かった。

今の市役所は十二時〜十三時までの一時間だけしか休めないことが判明。それよりもランチを提供して欲しいとお客さんから要望された。それもまた良しと妻と話し合っ

てランチ専門店として営業を開始した。コックが妻でマスター予定の小生はお陰で自称日本一のウェイターになってしまった。がこれが全く違うジャンルなので実に楽しい。二〇一三年十一月で八年目に入った。ウィークデイだけ営業。土日祝祭日は勿論休みで、疲れ過ぎたり、病院に行く日も休ませて頂き、気ままに商売させてもらっている。

地元の有名なグルメのブログに取り上げられたり地元で溶け込んだりして、赤字に

ならなければとの気持ちでのんびり、楽しくやっている。

二十〜三十位のメニューを季節や仕入れ値等考えながら、一品一種類・スープ・サラダ・ジュース・フルーツ・箸休めのコースでコーヒーなどフリーでお茶請けもサービス。これでお客が来ないほうがオカシイ位に思っている。値段は七百円均一です。

一日五千歩は歩いて、初期の目的、体に良いことやっています。

終わり。

ニパダの思ひ出

西村 享（38政経）

一つは、ゼミの恩師のことである。四年生の夏、早川三代治先生が亡くなられて五十二年目になる。先生は六十二歳の時、小樽商科大学の定年を待たずに早稲田大学にいられた。同級生の早川佳郎君のお父上である。

一昨年、没後五十年目に、中央公論事業出版から先生の遺作「土と人第五部・地飢ゆ」が発刊された。電気もガスも水道もない酷寒の原野・北海道虹別の戦前・戦後の農民の生活をとおして、「戦争」や「生きる」とこの根源を追及したものである。

昨年、佳郎君から先生の鞆の底にあった封筒と一通の文書が送られて来た。その文書は私が就職した橋梁会社の総務部長から

のもので、「優秀な学生（勿論定型文言）を推薦して頂き感謝します。今後もよろしく。」というものであった。

先生は農民文学者でもあったこと、小樽の大地主で北海道大学の助教授を辞して農場経営の後小樽商大に奉職されたこと並びに私の知らぬ間に就職の面倒をみて頂いたこと等を五十余年後に知った。

下宿が大学西門側の緑荘であった。かつて俳優佐田啓二も下宿していた木造二階建て、その古さゆえに消防署にマークされていた。思い出の二つ目は、その下宿近くの食堂「いなほ」のことである。

六十歳過ぎの夫婦と三十歳の息子が働いていた。その「たまご野菜炒め」は絶品だった。顔見知りになると食事に行く度に、おばちゃんはヨーグルトや紙パックの牛乳をサービスしてくれた。これは有難いことなのだが、時々困ったことがあった。それは、食後の代金支払いの際に親父さん又は息子が、奥からテーブル席に出てくるとサービス品の代金を告げる。その時、「ゆっくり」と財布からお金を出す瞬間におばちゃんが奥から急い出てきて、他の客を慮って手を左右に振って、その代金は受け取るなという仕草をした。

就職・退職・学士入学等々色々あった。あれから三十五年後のホームカミングデーの際に「いなほ」に立ち寄ったが、そこに食堂はなく、おばちゃんはいなかった。「いなほ」に倍返しする機会を逸した。ああ・人の倍近く大学に在籍し、息子とその嫁も大学の後輩であることから、ワセダへの

思い入れは強くて深い。

「オクノミクス」の思ひ出

國米 家己三（31政経）

わが稲門会の創立と同時に会報「杜の西北」も創刊されました。年一回の発行でしたが、私は十年、その編集にたずさわり、鮮烈な思い出をいくつか残しています。

その一つが、太平洋戦争末期に東久留米の滝山に誕生した早稲田大学・学徒錬成道場の取材時のものです。当然ながら大学にاندか出向き、資料収集に当たりました。ある日、大学本部棟の二階にある広報課を訪ねた時のことです。ドアをあけ室内に一步足を踏み入れると、正面の窓際にいた女性職員が、ちょうど昼どきで食事中でしたが、スックと立ち上がり急ぎ足で私のそばにやってきました。いや、それどころではありません、右から、また左からも職員が私の応対のために現れたのです。用件を伝えると、最初の職員が、「分かりました。一分ほど、お待ちいただけますか」

「二分ほど」と具体的な時間をいつて電話台に駆け寄ります。残った女子職員は、手持ち無沙汰になった私に話しかけるのですが、それもほんのつかの間、電話をすませた職員が戻ってきて、

「お申し出の件は八階の秘書課の担当にな

ります。資料は△△という者が窓口になっておりますので、どうぞそちらにお越しくださいませ」

エレベーターまで一人の職員がおくつてくれ、そのドアが閉まり切るまでお辞儀をしていた。なんだかデパートで高価な買い物をしたみたいな気分。

しかも驚いたことに、八階で△△さんが目当ての資料をすでに用意して私を待っていた。なんと早業！なんと早業！

寸秒を争う仕事に夢中になっていくマスコミ関係者がつねに相当数、早稲田に取材にやってくるであろう。それに対応するには、こんな早業が必要なんだ、と早稲田が叫んでいるようにも思えたものです。

実はその前年、私は「東稲ニュース」に「早稲田の広報戦略」について寄稿。奥島隆康総長（当時）が一種、「広告塔」になって精力的にマスコミに「露出」し、ジャーナリズムの世界に無数にいる早稲田OBを活用して大学のイメージアップを図っている、といった内容の話を書きました。確固たる根拠はない、あくまで推測記事の域を出ないものでしたが、実際に広報課や秘書課を訪ねて、これが推測から確信に変わってしまいました。

事実、奥島総長の大学改革、いま風にいえば「オクノミクス」によって、それまで長期沈滞していた早稲田は甦りました。そのなかの重要な一環である広報戦略の、いわば鬼気迫るような革新を、私は垣間見たのだと、いまも信じています。

ああ、ガリ版

大島 勝典（38文）

ノスタルジイは青春を引き連れてくる。さきごろ本の整理をしていたら、ふと一冊の小冊子が目に止まった。謄写版用カット集とある。バラバラめくると、かびくさい匂いと共に懐かしさと愛おしさが胸いっぱい駆けめぐる。遠い記憶をとどこめた小箱のヒモが一気にほどけるように。

中央謄写学院発行、表紙には「賞」の印が押してある。そうだ、水道橋からお茶の水寄りに五分程歩いた所に謄写界で有名な中央謄写学院があった。大学一年の時、そこで夜間講座で学び卒業集作コンクールで優勝して授与されたカット集である。今見ると粗末だが当時はとても嬉しかったものだ。当学院は謄写筆耕技術者のプロ養成学校だった。

謄写版、別名ガリ版・・・なんと懐かしい響きだろう。ロウびきの原紙をヤスリ盤にのせ、鉄筆でガリガリと文字、絵を刻む。その紙を木枠にはめ、網をかぶせたうえでインクを塗ったローラーを押しまわして下の紙に写し出す、安価で優れた簡易印刷機である。

文字や絵を書く下のヤスリ盤も作成目的によって様々だ。明朝体、ゴシック、カット、題字用、文字の大きさも五ミリ、四ミリ、三ミリ・・・筆圧も一定にすることにより

美しい印刷仕上がりになる。

当時、筆耕技術者は引く手あまただった。自身もテレビやラジオの台本、会社の書類、文集等アルバイトに事欠かなかった。

これがなかったら戦後の経済成長も大幅に遅れたのではないかといえは言い過ぎだろうか。いずれにしても印刷文化を支えたスグレモノだったと思う。

発明はトーマス・エジソンで日本の堀井謄写堂、堀井新治郎氏が改良、一八九四年に完成したとされる。やがてガリ版は昭和四十年代に役目を終えて消えていく。

ガリ版作りは複雑な機能がないからこそ作った人の個性が表れ、活字とは異なる手書きの温かみと親しみを覚える。そして筆耕者の息づかいが聞こえるのだ。

ガリ版に夢中になった青春の日々。思い出はセピア色だが画像は鮮明だ。

「東久留米稲門会」の誕生

松崎 博（35理工）

東久留米稲門会会報創刊第一号はこの見出しで始まる。今年二十周年を迎え、先達のご尽力、足跡の大きさに改めて感謝と敬意を表します。

*詳細は当会のホームページ

(Hd: <http://homepage2.nifty.com/35292/>)
→会報社の西北→社の西北創刊第一号(安

宅武一初代会長

*HP…アーカイブス→巻頭言録→「杜の西北」と「東稲ニュース」の沿革と役割（高橋勤二代会長）
 *HP…創立10周年記念号

小生の稲門会小史（始まり）

何時入会したのかさっぱり思い出せない。そこでHPと日記を見比べ一九九七（平九）年一月十八日を割り出した。当日の日記には「稲門会夕刻から出席した。知らぬ席に座っても楽しく過ごせた。出席、出席すること！」（ママ）とあり若干不安気だった様子が読み取れるがこれが始まりとなる。

*HP…アーカイブス→会の歩み

小生の稲門会小史（ホームページ）

件名の立上について高橋会長から依頼の打診を受けましたが全くの未知数であった為、準備段階として先ず自分のホームページを立上げその可能性を確認した後、引き受けた。各部門から永続的に十分な情報が得られる環境整備が必須です。

*HP…アーカイブス→巻頭言録→ホームページ開設に際して（高橋勤二代会長）
 *HP…東稲ニュース（第二十七号）
 写真はカラー）

小生の稲門会小史（映画鑑賞会 フィルム

↓カセット↓ディスクへと）

この計画を立ち上げる為には十六ミリフィルムを扱える映写技師の資格が必要で、高橋会長（資格取得済）を支援する為、帆

角さん森田さんと小生の三人が資格を取得してスタートした。今や高齢化社会に適合し、往年の名画を米光部会長が選定し、成美教育文化会館との共催で毎回ほぼ満員の盛況が続いています。

*HP…アーカイブス→巻頭言録→十六ミリ映写会について（高橋勤二代会長）
 *HP…アーカイブス→映画鑑賞会（又は映画サークル）

小生の稲門会小史（これから）

さらに日記を調べてみると単身赴任は二〇〇〇年五月三十一日サヨナラパーティとある。その後三年に亘りサラリーマン生活と同時にせつせと引退後の地元拠点の稲門会活動に忙しく精を出す。楽しい人生哉！東久留米稲門会万歳！

*HP…アーカイブス→巻頭言録→地域稲門会の役割（安宅武一初代会長）

「偉大なる凡人」大隈重信

栄田卓弘（早大名誉教授）

先年、わたくしはこの稲門会の講演で、反骨の言論人としての浮田和民氏を紹介したことがあります。「俘虜留学」論争、乃木將軍殉死問題、教育勅語限界論、南北朝廷性の問題、また男女同権の主張です。しかし彼は反骨の人ばかりでなく、意表をつ

く表現で人を驚かす面もありました。その例は、早稲田大学の創立者、大隈重信の逝去後の追悼会での浮田の演説にみられます。大隈侯は一九二二年一月十日、その多彩な生涯を閉じました。その大きな政治上的活躍と教育者としての業績にともなう国民的人気は、日比谷公園で行われた国葬ならぬ国民葬で、葬列の沿道に百五十万人を集めたことに如実に示されています。

早稲田大学は、同年四月二十二日、故大隈総長追悼集会を校庭で催し遺徳を偲ぶことになりました。その折りの弁士は、高田早苗、後藤新平、一木喜徳郎など錚々たる人物で、こもごも立って大隈侯は一代の偉人であったとほめ称えました。ところが最後に立った浮田和民は、開口一番「大隈侯は偉人にあらずして凡人であった」と述べました。大隈侯を「凡人」とする批評にどうなることかと会衆は固唾を呑みました。浮田は「しかし凡人としては偉大なる凡人であった」と言葉をつぎ、聴衆は胸をなでおろしたのでした。林癸未夫は、この逆説を単なる言葉のあやではなく、故大隈侯に親しく接した間に内面と外面を観察した結果くだした断案であると想定し、浮田「独特の批評眼の鋭さを示」すものと評しています。また吉村 正は、これを「名言」とし、「一言によって侯の本質が表現されている」と見ています。

この逸話は、誤解を恐れず、人の意表をつく表現をもあえてする彼の特質を示すばかりでなく、寸鉄人をさすていの彼の鋭い批評眼を示すものとして人を魅了するものがあります。

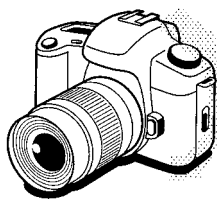
私と東久留米

伊佐 九三四郎 (31文)

東久留米は荒川、入間川、多摩川と東京湾に囲まれた武蔵野のほぼ中央にある。水の乏しい広大な洪積層・武蔵野台地の中で、平成の湧水百選に選ばれるほど水に恵まれていることもあり、「水と緑とふれあいの町」が市のキャッチフレーズになっている。あの独歩が名作「武蔵野」の中でうたいあげた雑木林やケヤキ、カシ、竹林に囲まれた屋敷林もまだ何か所かに残っているのはうれしい。

都心から東久留米に移り住んだのは、昭和四十二年のことだった。東京の郊外はオリビック景気の影響で宅地化が進み雑木林がどんどん消えていくのを見て、山の雑誌に「滅びゆく武蔵野」を連載し、「武蔵野の散歩みち」(山と溪谷社刊)という本を出したことを時々思い出す。

あの頃は若かった。所沢、三芳、入間、新座さらに三鷹、武蔵野、武蔵小金井、調布などボロ自転車にまたがって写真を撮りまくった。大雪の時は平林寺へ、雪が止んで快晴になれば小手指ヶ原や深大寺などへも自転車が出かけた。大判のカメラは重かったが、静まりかえる雑木林や竹林の中で押す「シャッ」というシャッター音が何とも思索的で、豊かな幸福感を味わったものだった。



市の広報紙に連載依頼があった時は、「引越してきたばかりなのに」というためらいはあったものの、歩いて撮って書けるのが楽しいので何回か雑文を書いた。これが小冊子になったり、歴史散策の講師依頼があったり。とくに小学生の教室などは、はじめどう話していいか迷ったが驚くほどよく理解してくれたのが記憶に残っている。昨年で打ち上げにした成人向けの講座もよくつづいた。いくつのグループで何回になったのか、記録を整理していないのでよく分らないほど歩いている。

東久留米には去年三鷹市に移るまで四十六年間お世話になった。その間稲門会にも入れていただいた。何もしない会員で申し訳ない上、市外会員になってしまったのだが、心はハイマート東久留米にある。

物書きの締めくくりはやはり「武蔵野」と考えているので、周囲がマンションだらけになった三鷹、吉祥寺辺りに残る井の頭公園や玉川上水などを改めて撮り始めている。もちろんその芯となるのは東久留米であることに変わりはないから、柳窪をはじめめとする緑と水を撮りなおすつもりでいる。ただ寿命と競争の仕事だからのんびりというわけにはいかないのが悩みだが、稲門会二十周年をスタート地点、二十五周年を目標に何とか完成したいと思っている。

今年は昭和八十九年・大正百三年です

館 雅子

谷崎潤一郎・佐藤春夫を訪ねた日

明治・大正・昭和にかけて活躍した文学者を次々訪ねたのは、昭和三十年代、私も三十代の頃のことです。二十年代の日本評論社から河出書房に移って「法学新書」二十巻を担当していたのですが、この出版社も倒産一步手前、自転車操業の時代でした。手をあけていられないお陰で、面白い仕事飛び込んできた一号は「あまから随筆」。今でいう有名人のグルメ本です。書き手には、きら星のごとく作家や政治家、料理家たちの名が並んでいました。

彼らはいわば明治の二代目、もはや青雲の志を抱き「人生如何に行くべきか」と深刻になる時代は去り、精神的にも余裕を持てる時代になっていました。永井荷風は「大正期の日本の生活は、最豊富な時期、我々が再びバナナやパイナップルを貪り食える日はいつであろうか」などと昭和二十一年、熱海の家で哀れな願いを書いています。

佐藤春夫邸を訪ねた日

昭和三十一年の暑い夏の日でした。目白台の坂をのぼりながら、校正刷りを片手になぜか必死に、さんま、さんま、さんまは苦いか塩っぱいか・と春夫氏の有名な歌を繰り返していました。それまで編集者と

して付き合ったのは、早稲田大学の戒能通孝氏や東大の我妻先生・京大の法学部の滝川幸辰先生達でしたが、文学者とはどう向き合うのか、心細かったのです。

広いバラの咲き乱れた庭、小説「イスパニア犬の家」そのままの幻想的な家を春夫氏が目白台に建てたのが大正十四年。南欧風の建物、凌霄花（のうぜんかづら）を這わせた桃色の壁、パリのマロニエを植え、噴水のある庭。

家の中は高い天井、広い部屋、足がすくみそうになったのは春夫先生の御座所でした。昔の天皇が将軍が座するような一段と高いところに畳が敷かれ、上から御簾が下がるような、恐れ多い仕切りになっています。将軍様の見下ろす正面に小さな囲いがあり、そこに正座して座らされる編集者はまるで蛇に睨まれたカエル同然です。

立派な体格、鋭い目、高く大きな鼻、大きい耳、想像とは大分かけ離れた春夫先生は差し出された原稿をじっと見入っていました。突然「だから今の若い編集者はきらいなんだ！日本伝統の文字を新仮名とか言ってみんな直してしまおう」「言葉が乱れる時に国は滅ぶ。日本は二度滅ぶ！」「元の正しい日本語でなければ私は書かん！」と相当な剣幕で云われました。「はい。戻りまして編集長に申し伝えます」。

真赤に校正されたゲラ刷りを押し頂いて、目白台の坂を下りました。「あまから随筆」の著者三十六名の中で、佐藤春夫氏のみ旧仮名遣いで「鮭のはなし」を書いておられます。

伊豆山の谷崎潤一郎さん

碧い伊豆の海を背に、一本の山道を登ると、やがて見えてくる京都のお寺風の瓦屋根、谷崎さんの雪後庵とすぐにわかりました。通された粹な和室の机の前で、顔つきは厳しいが、小柄な優しい物腰の方が谷崎さん！？「この部屋からは、太平洋から昇る朝日と、伊豆の山並みに沈む夕日が見えるんですよ」と教えて下さる。「すむつかり」という地方料理の語源など書かれた原稿を見ながら「私は新仮名で構いませんよ」「時代と共に文字遣いも変わるでしょう」といわれました。小窓から雲の切れ目に初島が顔を出すと、私のノートを引き寄せぎこちない右手に鉛筆を握り、何やら書き始めました。

箱根路をわが越えくれば伊豆の海や

沖の小島に波の寄るみゆ 源実朝

これは私の愛唱歌です。そこへ日本的美人の松子夫人が、手作りのプリンですと二つもってこられる。ああこの方が有名な谷崎・佐藤両氏間で行われた夫婦交換のお一方か、とひそかに思ったのです。

それから二十数年後、京都の桑原武夫先生の「現代風俗研究会」の二次会で祇園の料亭に行った時のこと。同席した瀬戸内寂聴さんが「佐藤夫人は紛れもなく元谷崎夫人だった」、松子さんは芦屋の違う方の奥様だったのを、谷崎さんが、円満に譲り受けられたのよ」といわれました。事実そうであったようです。

「細雪」の完結後体調を崩され、冬場は温暖の地熱海へ。谷崎さんの若いころは自然主義文学が主流をなしていたが、これを嫌った氏は尾崎紅葉の硯石社を良しとし、藤村を嫌い、独歩、花袋、白鳥らに反旗を翻し、苦境に追い込まれ

たこともあったそうです。若き日尊敬した尾崎紅葉こそ「熱海の海岸散歩する寛一お宮の…」で有名な金色夜叉の著者。晩年熱海を本拠地と定められたのも故なしとしないのでは。

現在、雪後庵は新日鉄の稲山氏が買われ稲山と古びた表札がかかっています。山道を更に頑張つて上がると、東条さん等七戦犯の遺骨鎮まる立派な興亜観音堂があり、吉田茂の筆になる「七士の墓」と刻んだ大きな岩が、過激派の爆弾に割られたままになっています。かつての谷崎家の料理番が、美味しいケーキ屋をしていたり、谷崎家のすぐ上にいた志賀直哉氏が「この洋食はスコットランドより美味い」といわれ、店名をスコットと名付けた洋食屋が栄えています。往時茫々として夢の如し、です。

熱海・丹那の里にて



竹林公園

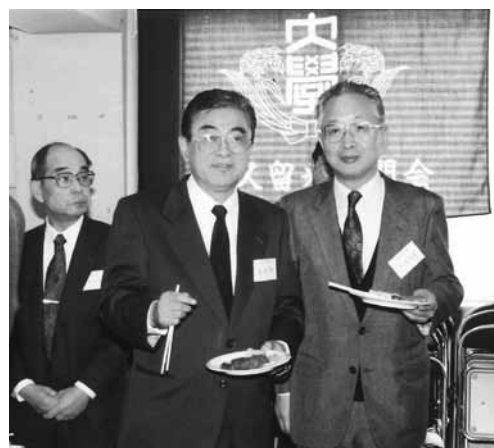
(写真提供：東久留米市役所)

1 年目 平成 7 年度

1995 年 4 月～翌年 3 月 会長 安宅 武一氏 会員数 95 名

I. 第 1 回定時総会

4 月 16 日 於) 商工会館 3 階ホール 総会出席：80 名
 出席者 東久留米市 稲葉 三千男 市長
 大学側 小山 宙丸 前総長
 中島 宏 校友会代表幹事
 近隣稲門会 小平、田無、保谷 各代表者



II. 発刊物

・ハガキ東稲通信 第 1 号 7 月 1 日 第 2 号 10 月 1 日 第 3 号 1 月 1 日
 ・会報「杜の西北」 第 1 号 8 月 21 日 第 2 号 3 月 3 日
 ・会員名簿 6 月 5 日

III. 大学・近隣稲門会交流

6 月 10 日 田無稲門会総会 8 月 12 日 三多摩稲門会会長会
 7 月 8 日 保谷稲門会総会 10 月 8 日 三多摩稲門会連合会
 10 月 8 日 小平稲門会総会

IV. 部会、その他催事

4 月 16 日に設立総会を終え、6 月より部会活動がスタート
 ・散策山歩きの会、女性サークル、ゴルフ部会、俳句部会、囲碁部会の 5 部会が活動開始

6 月 24 日	新設	散策山歩きの会	鎌倉ハイキング	16 名
7 月 1 日	新設	女性サークル	集会 活動方針の確認	5 名
7 月 12 日	新設	ゴルフ部会	第 1 回 浦和ゴルフ 春秋 1 回づつ	17 名
8 月 26 日		東地区懇親会	東久留米駅コスモス	27 名
10 月 7 日		西地区懇親会	滝山 柳 寿司	29 名
1 月 10 日		田無タワー見学会		10 名
1 月 20 日		新年会	割烹 浜波	47 名
2 月 11 日	新設	俳句部会	中央公民館 隔月開催	16 名
3 月 17 日	新設	囲碁部会	中央公民館 毎月 1 回	12 名

2年目 平成8年度

1996年4月～翌年3月 会長 安宅 武一氏 会員数 116名

I. 第2回定時総会

4月13日 於) 東久留米商工会館
出席者 大学側

総会出席：75名

中島 宏 校友会代表幹事

佐藤 文男 URセンター長

講演会

坂本 信太郎 早大名誉教授

テーマ 「科学技術はじめまして - 現代科学技術と社会 -」

II. 発刊物

・ハガキ東稲通信 第4号 4月1日 第5号 7月1日
第6号 10月1日 第7号 1月1日
・会報「杜の西北」 第3号 3月2日
・会員名簿 7月5日

III. 大学・近隣稲門会交流

6月8日 田無稲門会総会

5月17日 23区稲門会連合会

7月7日 保谷稲門会総会

10月6日 小平稲門会総会

10月26日 小金井稲門会総会

10月30日 校友会大会

11月26日 武蔵野稲門会総会

IV. 部会、その他催事

4月20日	俳句部会	中央公民館 隔月開催	16名
5月19日	女性サークル	野崎美術館・近郊散策	20名
5月25日	人間科学部デイ見学	所沢キャンパス	29名
7月3日	東海村 見学		16名
10月5日	散策山歩きの会	日和田山・高麗の里散策	22名
11月3日 新設	早慶戦観戦会	明治神宮野球場	12名
12月1日	女性サークル	和紙・小物アクセサリ作り	20名
1月18日	新年会	割烹 浜波	54名
3月30日	観桜会	小金井公園	13名

はがき「東稲通信」

東稲通信(1) 95.7.1.
○会報の名称「杜の西北」に決定
6月23日開催の幹事会において、目下製作を怠っている会報の名称を「杜の西北」(当面年一回発行)とすることとした。なお会報のつなぎに発行するニュースは、「東稲通信」とし、1・4・7・11月にお届けすることとなった。
○鎌倉古蹟散策の開催
6月24日(土)、稲穂郷・リクレーション部の主催で行われた。参加者16名。毎雨の晴間にあまれ、予定通り、楽しい古蹟散策であった。
○第一回ゴルフコンペ
7月12日(水)、調和ゴルフコースで行われる予定。参加者18名。
◇阪神大震災救済募金締め切る
校友会本部では、全国の近隣稲門会に募金を呼びかけて来たが、このほど締め切り、本部の募金を含めて、1,200万円を大学と校友会兵庫支部へ送ることとなった。東久留米稲門会は各定年層のためこの募金には参加出来ない。
◇マンデラ氏を悼む
近く東日を予定されている南ア共和国大統領ネルソン・マンデラ氏に、本学より名誉博士学位が贈られることとなった。贈呈式は7月4日(火)大講義室で行われる。
◇早稲田カード奨学金制度スタート
カードの発行枚数は、この3月末で53,000枚となり、カード会社からのキックバックも198万円となった。大学ではこれをファンドとして早稲田カード奨学金制度を4月1日から発足させた。 東久留米稲門会

平成8年11月 早慶戦観戦会



3年目 平成9年度

1997年4月～翌年3月 会長 安宅 武一氏 会員数 145名

I. 第3回定時総会

4月13日 於) 市民プラザホール
出席者 大学側

総会出席：81名

水間 英光 総長室室長

中島 宏 校友会代表幹事

口元 周策 校友課長

講演会 日比野 弘 早大教授

テーマ 「ラグビーに学ぶチームワークとリーダーシップ」



日比野弘氏

早大1年よりレギュラー。選手として
日本代表 早大監督・日本代表監督・
日本協会理事として日本のラグビー強
化・発展に尽力

2014年4月 早稲田大学

スポーツ功労賞に写真は功労賞を受賞の日比野弘氏

II. 発刊物

・ハガキ東稲通信 第8号 4月1日 第9号 7月1日
第10号 10月1日 第11号 1月1日
・会報「杜の西北」 第4号 3月1日
・会員名簿 6月30日

III. 大学・近隣稲門会交流

5月11日 保谷稲門会総会	6月11日 三多摩稲門会会長会
6月15日 田無稲門会総会	7月27日 三多摩稲門会連合会大会
9月25日 武蔵野稲門会総会	10月5日 小平稲門会総会
10月19日 稲門祭・ホームカミングデイ	10月25日 小金井稲門会総会
11月15日 東村山稲門会総会	11月16日 清瀬稲門会総会

IV. 部会、その他催事

5月17日	女性サークル	山崎パン・ガス資料館見学	22名
6月14日	散策山歩きの会	子の権現ハイキング	18名
8月23日	囲碁部会	四万温泉合宿	10名
8月30日	東地区懇親会	磯久	41名
9月20日	西地区懇親会	柳 寿司	24名
10月30日	女性サークル	デュオリサイタル 紀尾井ホール	20名
11月2日 新設	書道部会	毎月第2日曜日	17名
11月8日	散策山歩きの会	飯能ハーブ園	7名
1月24日	新年会	割烹「浜波」	54名

4年目 平成10年度

1998年4月～翌年3月 会長 安宅 武一氏 会員数 155名

I. 第4回定時総会

4月19日 於) 市民プラザホール

総会出席：87名

出席者 大学側

中島 宏 校友会代表幹事

南川 良典 広報室調査役

(この年より、総会の会場を市民プラザホールに変更。)

講演会 瀬古 利彦 氏

テーマ 「心で走れ」



瀬古 利彦氏

早大3年で福岡国際マラソン優勝以後3連覇
 ボストンマラソン2回、ロンドンマラソン、シカ
 ゴマラソン、東京国際マラソン等数々優勝 ロス
 五輪14位、ソウル五輪9位 この後早大陸上競
 技部 監督 S B食品監督など歴任

II. 発刊物

- ・ハガキ東稲通信 第12号 4月 1日 第13号 7月 1日
- 第14号 10月 1日 第15号 1月 1日
- ・会報「杜の西北」 第5号 3月 7日
- ・会員名簿 6月 29日

III. 大学・近隣稲門会交流

- | | |
|----------------|-----------------|
| 5月17日 保谷稲門会総会 | 6月15日 田無稲門会総会 |
| 9月20日 小金井稲門会総会 | 9月25日 武蔵野稲門会総会 |
| 10月31日 小平稲門会総会 | 11月 8日 東村山稲門会総会 |
| 11月15日 清瀬稲門会総会 | 10月 1日 校友会代議員会 |

IV. 部会、その他催事

- | | | | |
|--------|-------------|-----------------------------|------|
| 5月17日 | 女性サークル | オール早稲田キャンパスツアー | 12名 |
| 8月 8日 | 新設 納涼会 | 成美教育文化会館 | 50名 |
| 10月 4日 | 早大グリークラブ演奏会 | 於) 中央公民館 満席 | 500名 |
| 10月30日 | 囲碁部会 | 千葉岩井民宿「しが」で合宿 | 10名 |
| 10月31日 | 俳句部会 | 平林寺へ吟行 | 14名 |
| 11月18日 | ゴルフ部会 | 三多摩稲門会コンペ
団体優勝・個人戦は森本氏優勝 | |
| 1月23日 | 新年会 | 割烹「浜波」 | 52名 |



5年目 平成11年度

1999年4月～翌年3月 会長 安宅武一氏 会員数 161名

I. 第5回定時総会

4月19日 於) 市民プラザホール

出席者 大学側

総会出席：90名

水間 光英 総長室室長

南川 良典 広報室調査役

講演会 マークス寿子 氏

テーマ 「21世紀を迎えるにあたって、今イギリスに何を学ぶか」



マークス 寿子さん

1936年東京生まれ、早大政経卒 英国一のスーパー・チューン当主 マークス氏と結婚。男爵夫人の称号。85年離婚。

著書 「大人の国イギリスと子供の国日本」
「ひ弱な男とフワフワした女の国日本」

II. 発刊物

- ・ハガキ東稲通信 第16号 4月 1日 第17号 7月 1日
- 第18号 10月 1日 第19号 1月 1日
- ・会報「杜の西北」 第6号 3月12日
- ・会員名簿 7月 5日

III. 大学・近隣稲門会交流

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 5月15日 保谷稲門会総会 | 11月 7日 小平稲門会総会 |
| 6月 8日 田無稲門会総会 | 11月20日 東村山稲門会総会 |
| 9月22日 武蔵野稲門会総会 | 10月 7日 秋季代議員会 |
| 10月30日 小金井稲門会総会 | 3月 10日 代議員会 |
| 10月31日 清瀬稲門会総会 | 3月 11日 全国幹事長会 |

IV. 部会、その他催事

- | | | |
|----------------|----------------|-----|
| 9月25日 囲碁部会 | 日立市河原子海岸ホテル合宿 | 9名 |
| 9月29日 ゴルフ部会 | 三多摩稲門会ゴルフコンペ参加 | |
| 10月 3日 女性サークル | バーベキュー 昭和記念公園 | 29名 |
| 11月14日 俳句部会 | 小金井公園 吟行 | 11名 |
| 11月21日 散策山歩きの会 | 秩父丘陵ハイキング | 12名 |
| 1月15日 新年会 | 成美教育文化会館 | 61名 |

囲碁部の精鋭



6年目 平成12年度

2000年4月～翌年3月 会長 安宅武一氏 会員数 166名

I. 第6回定時総会

4月15日 於) 市民プラザホール 総会出席：76名
出席者 大学側 関谷 武彦 総長室調査役
講演会 高西 淳夫 早大理工学部教授
テーマ 「人間型ロボット 最前線」

II. 発刊物

・ハガキ東稲通信 第20号 4月 1日 第21号 7月 1日
第22号 10月 1日 第23号 1月 1日
・会報「杜の西北」 第7号 3月 18日
・会員名簿 7月 19日

III. 大学・近隣稲門会交流

5月14日 保谷稲門会総会	11月23日 三多摩稲門会連合会総会
6月11日 田無稲門会総会	6月26日 臨時商議員会
11月11日 清瀬稲門会総会	7月 8日 商議員会
11月19日 小平稲門会総会	10月 6日 校友会代議員会
11月23日 東村山稲門会総会	11月25日 商議員会

IV. 部会、その他催事

6月 3日	散策山歩きの会	飯能七国峠ハイキング	15名
6月10日	女性サークル	北山公園花菖蒲鑑賞	8名
8月27日～29日	書道部会	信州拇池高原錬成会	12名
9月12日	納涼会	成美教育文化会館	43名
10月 1日	俳句部会	多聞寺・竹林公園・落合川吟行	10名
10月21日	散策山歩きの会	名栗湖一周・さわらびの湯	18名
10月28日～29日	囲碁部会	箱根湯本「高杉」合宿	8名
10月29日	ゴルフ部会	三多摩稲門会ゴルフコンペ参加	
11月 4日	女性サークル	「いわさきちひろ美術館」	10名
1月10日	新年会	成美教育文化会館	51名



写真左：会報「杜の西北」第7号(平成12年3月発行)
同年4月早実が国分寺キャンパス開校

早稲田実業学校は2001年に創立100周年を迎え、それまで早稲田鶴巻町にあったキャンパスを国分寺に移転し、中学部の呼称を中等部に改称。さらに2002年4月からは、早稲田大学の系列校では初めて中等部、高等部とも男女共学を実施、また、初等部を開設しました。

私たちにとっては早稲田がより身近になった瞬間です。

7年目 平成13年度

2001年4月～翌年3月 会長 高橋勤氏 会員数 166名
第2代会長 高橋 勤 氏 就任

I. 第7回定時総会

4月13日 於) 成美教育文化会館 総会出席：71名
出席者 大学側 江国 弘 早稲田大学副総長
講演会 杉本 達夫 早稲田大学文学部教授
テーマ 「最新上海事情を語る 古書市、老舎、内山完造」

・東稲ニュース創刊 ・ポストマン配布開始 ・ホームページページ開設

II. 発刊物

・会報「杜の西北」 第8号 3月18日
・ハガキ東稲通信 第24号 4月1日
・東稲ニュース 創刊 第1号 9月1日 第2号 10月25日
第3号 12月10日 第4号 2月10日
・会員名簿 7月2日

III. 大学・近隣稲門会交流

8月25日 三多摩稲門会会長会 所沢 掬水亭
10月13日 三多摩稲門会大会 早大 ガーデンハウス
両会とも、東久留米・東村山・清瀬 稲門会が運営

IV. 部会、その他催事

6月23日 新設	グルメ部会	蕎麦「田中屋」	10名
8月29日～30日	書道部会	山中湖 錬成会「富岳荘」	19名
9月1日 新設	太極拳部会	市民プラザホール	14名
9月8日	納涼会	成美教育文化会館	44名
10月7日 新設	第1回 雑学塾	坂本信太郎名誉教授 「川柳から見る江戸の庶民パートI」	45名
10月16日	女性サークル	江戸東京博物館 ポンペイ展	8名
10月27日	グルメ部会	小平「いろりの里」	18名
11月18日	散策山歩きの会	御岳大塚山と御岳溪谷	19名
11月25日	囲碁部会	東村山稲門会と交流試合	10名
12月2日	役員・部会長忘年会	藍屋	29名
12月2日	第2回 雑学塾	馬場 清彦 氏(当会会員) 「私の幻のオリンピック」	38名
12月8日	女性サークル	食事会 アコルデ 安宅前会長招待	
12月14日～16日	書道部会	第1回作品展 中央図書館	24名
1月19日	新年会	成美教育文化会館	48名
2月3日	第3回 雑学塾	坂本信太郎 名誉教授 「川柳から見る江戸の庶民パートII」	40名
2月23日	グルメ部会	手打ち蕎麦「季彩 すずき」	14名
3月1日 新設	カラオケを楽しむ会	スナック 緒慕路	10名
3月31日	俳句部会	稲荷山公園吟行	13名

8年目 平成14年度

2002年4月～翌年3月 会長 高橋 勤氏 会員数 163名

I. 第8回定時総会

4月21日 於) 成美教育文化会館 総会出席：81名
 出席者 大学側 白井 克彦 早稲田大学副総長
 創立125年へむけて
 講演会 榎本 隆司 早大名誉教授
 テーマ 「よしなしごと ーいのちひとつー」

II. 発刊物

・東稲ニュース 第5号 4月10日 第6号 6月10日 第7号 8月10日
 第8号 10月9日 第9号 1月10日 第10号 3月10日
 ・会報「杜の西北」 第9号 3月1日
 ・会員名簿 7月10日

III. 部会、その他催事

4月6日	散策山歩きの会	天覧山・多峯主山ハイク	16名
5月7日	早稲田大学	創立125周年記念寄附金 200,150円	
6月1日	野球早慶戦 観戦会	春 6シーズンぶりの優勝	11名
6月2日	第4回雑学塾	泉 信吾 氏(当会会員・弁護士) 「損害賠償あれこれ 最近の判例より」	45名
6月29日	グルメ部会	イタリア料理 イル・カバロ・ビアンコ	14名
7月13日	太極拳部会	市内の錦会・翠会と合同稽古	全50名
8月4日	第5回 雑学塾	佐藤 雄二氏 (東久留米の水と景観を守る会代表) 「東久留米の残すべき原風景」	40名
9月1日	納涼会	ハワイアンバンド ケン・ハワイアンズ	57名
9月7日～8日	書道部会	コマツ箱根保養所 錬成会	11名
10月6日	第6回 雑学塾	國米 家己三 (当会会員・元産経新聞記者) 「私の日本人論 イチロー選手とグローバリズム」	60名
10月10日	グルメ、山歩き共催	妙義山麓日帰りバスツアー	39名
10月22日	早稲田大学	創立125周年記念寄附金 304,000円	
10月27日 新設	郷土研究会	東久留米七福神めぐり	16名
11月9日 新設	第1回映画鑑賞会	中央図書館 「ぼっぼや」、ライダーカップ	41名
11月15日	女性サークル	小江戸川越ぶらり散歩	7名
12月1日	第7回 雑学塾	國米 家己三 氏 (当会会員・元産経新聞記者) 「草食文化という視点」	50名
2月2日	第8回 雑学塾	竹村 鍊郎 氏(NHK学園講師) 「山と酒を愛した牧水と山頭火」	40名



9年目 平成15年度

2003年4月～翌年3月 会長 高橋 勤氏 会員数 165名

I. 第9回定時総会

3月30日 於) 成美教育文化会館 総会出席：76名
 出席者 大学側 村岡 洋一 早稲田大学副総長
 講演会 栄田 卓弘 早大名誉教授
 テーマ 「反骨の言論人・浮田和民早稲田大学草創期の巨人」

II. 発刊物

・東稲ニュース 第11号 5月10日 第12号 7月10日 第13号 9月10日
 第14号 11月10日 第15号 1月10日 第16号 3月10日
 ・会報「杜の西北」 第10号 2月22日
 ・会員名簿 7月10日

III. 大学・近隣稲門会交流

4月20日 三田会設立総会
 5月11日 西東京稲門会総会

IV. 部会、その他催事

4月1日	グルメ部会	手打ちそば「下宿 池添」	12名
4月6日	散策山歩きの会	顔振峠ハイキング	8名
4月20日	俳句部会	奥多摩 吉野梅郷 吟行	14名
4月29日 新設	麻雀部会	現在休眠中	10名
5月24日	太極拳部会	野外稽古 所沢航空公園	23名
5月30日	女性サークル	唐澤博物館 見学	7名
6月1日	第9回 雑学塾	納見 明憲 氏(当会会員) 「中高年の登山とその生理学」	42名
6月5日 新設	ウォーキング部会	水元公園と江戸川堤	14名
7月5日	グルメ部会	フランス料理「ヌーボ・マルシェ」	12名
7月6日	第2回 映画鑑賞会	「太陽がいっぱい」 市民プラザホール	55名
8月3日	第10回 雑学塾	吉田 利宏 氏(当会会員) 「食品表示のからくり」	35名
8月6日	ウォーキング部会	谷津干潟とサッポロビール千葉工場見学	14名
8月30日	太極拳部会	2周年記念懇親パーティー	29名
9月4日～5日	書道部会	熱海「双柿舎」 錬成会	12名
9月28日	第3回 映画鑑賞会	「カサブランカ」 市民プラザホール	60名
10月5日	第11回 雑学塾	川俣 栄一 氏(当会会員) 「虫の生態に学ぶ - マイクロマシン -」	30名
10月13日		バーベキュー大会 昭和記念公園	31名
10月19日	ウォーキング部会	深川界限散策	11名
11月7日	女性サークル	多摩 ハム工場見学	11名
11月9日	郷土研究会	市内名所めぐり「水と緑を訪ねて」	23名
11月15日～16日	書道部会	第2回作品展	250名来場
11月22日	早稲田大学	創立125周年記念寄附金	302,000円
11月22日～23日	囲碁部会	合宿 常陸多賀 静台荘	10名
11月24日	散策山歩きの会	鎌倉大仏ハイキングコース	25名
11月26日	早慶戦	早慶戦100周年記念試合	観戦多数
11月29日	第4回 映画鑑賞会	「恐怖の報酬」 市民プラザホール	45名
12月7日	第12回 雑学塾	米光慶二郎 氏(当会会員) 「シネ・ブラボー 懐かしの映画館」	35名
1月12日	ウォーキング・グルメ共催	「谷中七福神めぐり・豆腐料理を楽しむ会」	23名
1月24日	第5回 映画鑑賞会	「誰がために鐘は鳴る」 市民プラザ	108名
		この会より米光氏の解説が入る	
3月5日	ウォーキング部会	豪徳寺～羽根木公園・観梅	18名

10年目 平成16年度

2004年4月～翌年3月 会長 帆角信美氏 会員数 168名
第3代会長 帆角 信美氏 就任

I. 第10回定時総会

4月4日 於) 成美教育文化会館 総会出席：79名
出席者 大学側 村岡 洋一 早稲田大学副総長
講演会 川村 晃司氏
テーマ「ワイドショー 政治の舞台裏」聴講 200名 (一般市民を含む)

II. 発刊物

・東稲ニュース 第17号 5月10日 第18号 7月10日 第19号 9月10日
第20号 11月10日 第21号 1月10日
・会報「杜の西北」 第11号 2月22日 「杜の西北」10周年記念特集号 2月17日
・会員名簿 8月7日

III. 部会、その他催事

4月3日	太極拳部会	野外稽古 稲荷山公園	20名
4月18日	俳句部会	石神井公園吟行	11名
4月24日	第6回 映画鑑賞会	「哀愁」 市民プラザホール	110名
4月29日	ウォーキング部会	つつじを求めて 駒込駅から根津神社	21名
5月29日	カラオケを楽しむ会	シダックス東久留米	15名
6月6日	第13回 雑学塾	はやしたかし氏 (童話作家) 「宇宙・地球・人間」	45名
6月6日	囲碁部会	稲穂会に参戦	
6月14日	女性サークル	菖蒲を見るつどい	8名
6月18日	ゴルフ部会	ゴルフ早慶戦 太平洋アソシエイツ	7名
6月19日	囲碁部会	東久留米・西東京・東村山対抗戦	
6月26日	グルメ部会	狭山 翁の手打ちそば	10名
7月25日	ウォーキング部会	武蔵嵐山めぐり	9名
7月31日	第7回 映画鑑賞会	「心の旅路」 市民プラザホール	100名
8月6日	ウォーキング部会	谷津干潟とサッポロビール千葉工場見学	14名
9月4日	太極拳部会	3周年記念パーティー	32名
9月7日～8日	書道部会	軽井沢早稲田アカデミー錬成会	7名
9月23日	ウォーキング部会	見沼代用水東縁めぐり	16名
9月26日	囲碁部会	オール早稲田囲碁祭り参加	11名
10月3日	第14回 雑学塾	酒井 正敬氏 (当会会員) 「会社はいろいろ、社長もいろいろ」	25名
10月16日	第8回 映画鑑賞会	「断崖」 市民プラザホール	103名
10月22日	ゴルフ部会	第2回ゴルフ早慶戦 武蔵丘CC	10名
10月30日	太極拳部会	野外稽古 所沢キャンパス	18名
10月31日～ 11月4日	書道部会	第34回市民文化祭書道展	11名
11月8日	早稲田大学 創立125年記念寄付金	324,000円	
11月21日	創立10周年記念	早大グリークラブ演奏会 成美会館	300名
11月27日～28日	囲碁部会	合宿 陣馬温泉	16名
11月28日	ウォーキング部会	汐留新都心から高輪泉岳寺 荒川 正行氏	15名
12月5日	第15回 雑学塾	「地域防災力への取り組み、 東久留米自主防災会の活動」	20名
12月25日	カラオケを楽しむ会	シダックス東久留米	13名
1月23日	ウォーキング部会	東京都庁と明治神宮初詣	22名
2月12日	第9回 映画鑑賞会	「ガス灯」 市民プラザホール	150名

『東稲ニュース』 創刊号・No. 41・No. 76・表紙

平成20年
発行責任者 編集責任者
E-mail: w_hq http://www.hq

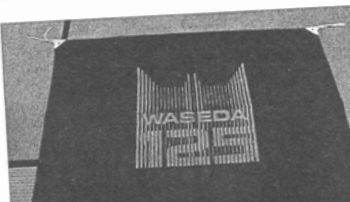
東稲ニュース

早稲田大学東久留米稲門会

会の告知板

7月16日(水)	7月お誕生会	17:30~
7月18日(金)	芸術鑑賞会	18:30開場
	「中村純子トーク&コンサート」	
7月21日(月)	ウォーキングを楽しむ会	9:35
	「JR新宿駅〜JR原宿駅まで」	
7月26日(土)	カラオケを楽しむ会	18:00~
8月1日(金)	役員会	18:30~
8月20日(水)	映画鑑賞会	14:00~
	「エデンの東」	
8月20日(水)	8月お誕生会	17:30~

【大学・校友関係】
○早稲田大学創立125周年記念事業募金
大学からの最終報告によると、当東久留米稲門会は大学からの依頼額20、成率124.5%となり、東京23区及び三多摩地区の中で9位の成績を挙げた。大学全体としては総額202億円余りとなり、200億円の目標を達成した。



平成26年
発行責任者 編集責任者
E-mail: w_hq http://www.hq

東稲ニュース

祝20周年記念特集号

早稲田大学校友会東久留米稲門会

20周年特選 20周年をわかつて

20周年記念事業へ思い切って参加してみよう!!

先月4月20日、第20回定時総会を盛会のうちに終えることができました。33番目の稲門会として産声をあげた当会、諸先輩方の熱い思いに支えられて迎えた20年、先人の努力に敬意を表し、築き上げてきた会員全員で祝い、大それたそのエネルギーを礎にして未来へ向かって前進して参りましょう。

20周年記念事業に多くの会員のご参加を……

5月は稲門会の月、もりだくさんのイベントが 11月はその最大盛

5月の20周年記念イベント

5月25日(日)	ウォーキングの会	黒目川原流から東久留米駅へ
	(道中ワセダの先輩、野口雨情を偲ぶのイベントあり)	
5月29日(木)	映画鑑賞会	(成美教育文化会館)
	「風と共に去りぬ」……懐かしの超大作上映……乞うご期待	
5月31日(土)	早慶戦応援・観戦	(明治神宮野球場)
	特等席準備、座席指定のため、参加申し込みのまだの方、大至急護送まで連絡を	
	残席僅少 定員に達し次第締切	

<今後の予定>

11月23日(日)〜24日(祝)	稲門会「私の力作」展	(成美教育文化会館)
	趣味の写真、水彩、油絵、水墨画、俳句、短歌、書、手芸、陶芸、絵手紙など	
	自慢の作品をご披露下さい。	
11月24日(祝)	「記念コンサート」 「20周年記念誌」プレゼント	(成美教育文化会館)
	○早大ニューオーリンズジャズクラブ 60年近い歴史をもった「ジャズ・アド・ジャズ」のナゾ	
	○地元の音楽グループ (交渉中)	

会の告知板

【部会予定】

5月12日(月)	ゴルフ部会「稲門例会」	玉村ゴルフ場
5月25日(日)	ウォーキングの会 (20周年記念事業)	09:00 東久留米駅改札口
5月29日(木)	映画鑑賞会「風と共に去りぬ」(20周年記念事業)	13:00 成美教育文化会館
5月31日(土)	早慶戦観戦会 (20周年記念事業)	10:15 東久留米駅改札口
6月8日(日)	囲碁部会「オール早稲田囲碁祭」	日本棋院
6月8日(日)	第1回役員会	16:00 生涯学習センター
6月9日(月)	ゴルフ部会「三田会合同ゴルフ会」	熊谷ゴルフクラブ

【大学・校友関係】
6月1日(日) 西東京稲門会総会

平成13年9月1日発行
発行責任者 高橋 勲
編集責任者 比護 喜一郎

東稲ニュース

創刊号 (東久留米稲門会)

「東稲ニュース」発行に際して

会長 高橋 勲

東久留米稲門会は、年1回機関紙「杜の西北」を発行し、年4回「東稲通信」(はがき通信)を発行しています。特に、「東稲通信」は、安宅初代会長が自ら命名して、当会設立の年の平成7年(1995)7月1日に第1号を発行して以来、自ら執筆、編集し続けて、今年で足掛け7年、22号まで続いた通信です。ここに、安宅前会長の長年の労にたいして感謝いたします。

「東稲通信」をどのような形で続けるかと幹事会で協議しました。11月には当会のホームページの開設を予定しております。それに合わせて「稲門会ニュース」を発行すれば、両者一体となって、相互に関連しあって、情報を発信し、ホームページの更新も常時できることになります。更に、部会の数も増えてきましたので、それらの活動を簡便に連絡するより、ニュース紙面で随時お知らせすれば、会員全員が部会活動の状況を知ることが出来ます。またポストマン制度を発足させました。これを機に「東稲通信」を装いも新たに、名称も「東稲ニュース」と改め、9月より隔月に発行することになりました。比護副会長が編集長の任に当たります。

「東稲ニュース」は部会と会員、会員と会員との情報の広場となれと思っています。会からのお知らせ、行事の連絡、各部会の行事予定や活動報告、会員皆様の近況、まわりで起こった出来事、大学に関する最新の情報等々の記事を掲載いたします。また10月より当会主催の雑学講座も開講いたします。講座内容の要約記事を発表するのも大事な役目となります。なお一層充実した紙面とするためには、皆様からの情報が何よりも大切です。随筆、旅行記、趣味、スポーツ、文化活動、何でも結構です。投稿をお待ちしています。

「東稲ニュース」を継続し、より良くするためにも、皆様からのご協力が欠かせません。会員皆様の暖かいご支援を宜しくお願い致します。

会からのお知らせ (年内開催行事他) 事務局長 帆角 信美

*納涼会を開催します

9月8日(土)午後6時から成美会館1階のギャラリーで開きます。会費は4000円で立食パーティですが、全員が座れるように椅子を並べます。また、カラオケ舞台も用意します。暑気払いに奮ってご参加下さい。

*ホームページを開張します

会計監事の松崎さんを中心に、東久留米稲門会のホームページ開設の準備を進めています。11月3日、文化の日に産声を上げる予定です。(別掲参照)

*雑学塾を開講します

雑談で大いに結構、建前抜きの本音で一般市民が講師を務める雑学セミナーが全国的に広がりを見せています。こんなところにヒントを得て、当稲門会も主に会員の方を講師に招き、皆様が気楽に参加して気楽に話を聞き、気楽に質問できる「雑学塾」を開講する運びとなりました。ご家族や近隣の方々を誘って参加して下さい。

記念すべき第1回の講座は当会顧問の坂本信太郎名誉教授にお願いして、10月7日(日)午後3時より商工会館3Fホールにて開催します。演題は「川柳から見る江戸の商人」です。先生

- 1 -



平成20年4月

早稲田大学創立125周年記念事業募金で、大学からの目標額に対して124.5%の2,495万円余を達成し、東京23区及び三多摩地区内で9位の成績となり、大学よりゴールドエンフラッグが授与された。

11 年目 平成 17 年度

2005 年 4 月～翌年 3 月 会長 帆角信美氏 会員数 168 名

I. 第 11 回定時総会

4 月 10 日 於) 成美教育文化会館 総会出席：70 名
出席者 大学側 村岡 洋一 早稲田大学副総長
講演会 村岡 洋一 早稲田大学副総長
テーマ 「大学からの起業 - 夢かまぼろしかー」

II. 発刊物

・東稲ニュース 第 22 号 5 月 10 日 第 23 号 7 月 10 日 第 24 号 9 月 10 日
第 25 号 11 月 10 日 第 26 号 1 月 10 日 第 27 号 3 月 10 日
・会報 「杜の西北」 第 12 号 2 月 26 日
・会員名簿 7 月 10 日

III. 部会、その他催事

4 月 16 日	太極拳部会	野外稽古 稲荷山公園	21 名
4 月 28 日	俳句部会	早稲田界隈吟行、大隈会館 楠亭	13 名
5 月 14 日	太極拳部会	野外稽古 所沢航空公園	23 名
5 月 15 日	ウォーキング部会	横浜みなとみらい～山手洋館	9 名
5 月 22 日	第 10 回 映画鑑賞会	「旅情」 市民プラザホール	160 名
6 月 2 日	女性サークル	音羽 鳩山会館見学	5 名
6 月 5 日	第 16 回 講演会	野崎 市郎 氏 (元東久留米郷土研究会会長) 「郷土民族行事《講》について」	54 名
この会より会の名を 雑学塾から講演会へ変更			
6 月 25 日	グルメ部会	石神井公園 中華 春秋園	18 名
9 月 7 日～8 日	書道部会	伊香保温泉 レイクサイドホテルゆうすげ	6 名
9 月 10 日	納涼会	成美教育文化会館	53 名
9 月 17 日	第 11 回 映画鑑賞会	「旅愁」 市民プラザホール	160 名
10 月 1 日	太極拳部会	4 周年記念パーティー	22 名
10 月 3 日	女性サークル	大泉学園 牧野記念庭園散策	7 名
10 月 15 日	三田会 演奏会	ワグネルソサイアティー男性合唱団	32 名
10 月 15 日	郷土研究会	東久留米無形文化財「南沢獅子舞」	10 名
10 月 16 日～17 日	俳句部会	四万温泉吟行 老舗旅館 「たむら」	14 名
10 月 18 日	ウォーキング部会	さいたま吹上さわやかコスモスの道	5 名
		金澤 淳 氏 (東久留米自主防災研究会・三田会員)	
10 月 30 日	第 17 回 講演会	荒川 正行 氏 (当会会員) 「東久留米の防災上の問題と課題」	44 名
11 月 19 日	早稲田大学	創立 125 年記念寄付金 238,000 円	
11 月 19 日	グルメ部会	手打ちそば 東村山 季彩「はや川」	10 名
11 月 20 日	散策山歩きの会	高尾山ハイキング	17 名
11 月 25 日～27 日	書道部会	第 3 回作品展 成美教育文化会館	
11 月 21 日	囲碁部会	合宿 湯河原 「ホテル 城山」	11 名
12 月 4 日	第 18 回 講演会	米光慶二郎 氏 (当会会員) 「松本清張」の世界	35 名
12 月 23 日	ウォーキング部会	護国寺・雑司ヶ谷・鬼子母神・早稲田キャンパス	17 名
12 月 26 日	カラオケを楽しむ会	シダックス東久留米	15 名
2 月 11 日	ウォーキング部会	向島百花園から浅草寺へ	27 名
2 月 13 日	女性サークル	レストラン 石やま	5 名
2 月 24 日	第 12 回 映画鑑賞会	「灯のあたる場所」 市民プラザホール	155 名

12年目 平成18年度

2006年4月～翌年3月 会長 帆角信美氏 会員数 166名

I. 第12回定時総会

4月9日 於) 成美教育文化会館 総会出席：75名
 出席者 大学側 村岡 洋一 早稲田大学副総長
 桜井 直子 総長室募金担当課長
 文化講演会 伊佐 九三四郎氏 (当会会員)
 テーマ 「海外の山旅から」 聴講 130名 (一般市民を含む)

II. 発刊物

・東稲ニュース 第28号 5月10日 第29号 7月10日 第30号 9月10日
 第31号 11月10日 第32号 1月10日 第33号 3月10日
 ・会報「杜の西北」 第13号 3月1日
 ・会員名簿 7月10日

III. 部会、その他催事

4月1日	第13回 映画鑑賞会	「麗しのサブリナ」 市民プラザホール	160名
4月2日	ウォーキング部会	盆栽村から大宮氷川神社へ	12名
6月3日	女性・グルメ共催	サントリービール府中工場見学と 寺社巡り・和食を味わう会	13名
6月10日	囲碁部会	オール早稲田囲碁祭り 当会より2チーム11名と個人戦1名参加	12名
6月18日	ウォーキング部会	皇居東御苑から靖国神社へ	7名
6月23日	ゴルフ部会	第5回 早慶戦 当会初勝利	
8月5日	第14回 映画鑑賞会	「ひまわり」 市民プラザホール	180名
9月7日～8日	書道部会	錬成会 谷川岳・宝川温泉 汪泉閣	7名
10月2日	第19回 講演会	篠田 義明 早大名誉教授 日本語の素晴らしさー手本は桃太郎ー	6名 53名
10月9日	ウォーキング部会	武蔵国分寺から殿ヶ谷戸庭園・滄浪泉園	18名
10月14日	男の料理を楽しむ会	納涼会より発展 成美教育文化会館	48名
10月15日～16日	俳句部会	榛名湖・榛名山吟行 湖畔の宿「ゆうすげ」	13名
10月25日～29日	書道部会	市民文化祭書道展に出展	
11月7日	女性サークル	シチズン時計田無工場見学	13名
11月10日	早稲田大学 創立125年記念寄付金	294,000円	
11月23日	散策山歩きの会	鳩ノ巣ハイキング	15名
11月25日	グルメ部会	保谷 そば 季彩 「すず木」	11名
11月25日	東村山稲門会	ボニージャックスと歌おう 招待される	
11月25日～26日	囲碁部会	合宿 伊東温泉 「伊東園」 佐藤 雄二氏 (当会会員)	12名
12月3日	第20回 講演会	「わがまち東久留米の この景観を守り、楽しもう」	40名
12月23日	ウォーキング部会	「両国・本所吉良邸跡から新橋へ 赤穂義士引揚げの道Ⅰ」	18名
2月1日	第15回 映画鑑賞会	「黄昏」 市民プラザホール	150名
2月12日	ウォーキング部会	小石川後樂園、植物園、文京区役所	16名



13年目 平成19年度

2007年4月～翌年3月 会長 市川英雄氏 会員数 153名
第4代会長 市川 英雄 氏 就任

I. 第13回定時総会

4月8日 於) 成美教育文化会館 総会出席: 72名
出席者 大学側 江夏 健一 早稲田大学副総長
文化講演会 清水 宣 氏
(日本ニュートリション協会副理事長・当会会員)
テーマ 「生活習慣病の予防 - どうしたら100歳までいけるのか」

II. 発刊物

・東稲ニュース 第34号 5月10日 第35号 7月10日 第36号 9月10日
第37号 11月10日 第38号 1月10日 第39号 3月10日
・会報「杜の西北」 第14号 3月1日
・会員名簿 7月10日

III. 部会、その他催事

4月14日	俳句部会	小江戸 川越 吟行	12名
4月30日	ウォーキング部会	トトロのふるさと狭山丘陵	30名
5月26日	散策山歩きの会	武蔵横手・五条の滝、北向き地藏	12名
6月1日	第16回 映画鑑賞会	「アフリカの女王」 成美教育文化会館	240名
	この会は会場移転		
6月17日	ウォーキング部会	染井霊園から古河庭園・飛鳥山へ	17名
6月18日	女性サークル	磯久 安宅・高橋・帆角元3会長を招いて	14名
6月22日	早稲田大学 創立125年記念寄付金	300,000円	
7月18日 新設	お誕生会	当月誕生日の方 毎月開催	9名
7月19日	第17回 映画鑑賞会	「お熱いのがお好き」 市民プラザホール	130名
7月25日	グルメ部会	東村山 草門去来荘	11名
9月8日～9日	書道部会	鍊成会 伊東温泉 コマツ保養所	13名
9月14日	第18回 映画鑑賞会	「マイフェアレディー」 成美教育文化会館	250名
	この会は会場移転		
9月16日 新設	ラグビー観戦会	日英大学ラグビー 対ケンブリッジ大学	
		秩父宮ラグビー場	
9月30日	早稲田大学創立125年記念寄付金	270,000円	
	6年間 8回寄附	合計2,772,150円	
10月7日	第21回 講演会	呉 淳久 氏 (当会会員) 「大相撲に魅せられて①」	39名
10月13日	男の料理を楽しむ会	成美教育文化会館	30名
10月21日	ウォーキング部会	大宮花の丘公園と周辺寺社巡り	14名
11月11日 新設	諸芸術鑑賞会	日本フィルハーモニー保谷こもれびホール	20名
11月15日	女性サークル	林 美美子記念館	11名
11月16日	第19回 映画鑑賞会	「雨に唄えば」 成美教育文化会館	220名
11月16日～18日	書道部会	第4回作品展 成美教育文化会館	103名
11月23日	散策山歩きの会	三峰山を訪ねて	16名
11月24日～25日	囲碁部会	合宿 南房総鶴原 「至楽荘」	10名
11月28日	グルメ部会	新鮮な魚のあふれる中で 太田邸	12名
12月2日	第22回 講演会	呉 淳久 氏 (当会会員) 「大相撲に魅せられて②」	35名
12月18日	ウォーキング部会	神奈川宿 歴史散策	14名
2月13日	第20回 映画鑑賞会	「禁じられた遊び」 市民プラザホール	150名
3月4日	第2回 諸芸術鑑賞会	日本フィルハーモニー ルネ小平	20名
3月17日	女性サークル	辰巳京子ホームピアノコンサート	9名
3月28日	グルメ部会	下町 土手の伊勢屋	9名
3月30日	ウォーキング部会	山手線 一周の旅 ① 高田馬場・戸山が原・新宿	18名

14年目 平成20年度

2008年4月～翌年3月 会長 市川英雄氏 会員数 156名

I. 第14回定時総会

4月6日 於) 成美教育文化会館 総会出席：68名
出席者 大学側 藁谷 友紀 早稲田大学理事
文化講演会 國米 家己三 (元産経新聞記者・当会会員)
テーマ 「中国が世界の工場ならば、日本は世界のアトリエ」



ゴールデンフラッグ授与

創立125周年記念募金で、
目標を超える金額をを寄付したことにより大学より「ゴールデンフラッグ」を授与される

II. 発刊物

・東稲ニュース 第40号 5月10日 第41号 7月10日 第42号 9月10日
第43号 11月10日 第44号 1月10日 第45号 3月10日
・会報「杜の西北」 第15号 3月1日
・会員名簿 7月10日

III. 部会、その他催事

4月5日	太極拳の集い	野外稽古 稲荷山公園	25名
4月20日	俳句部会	平林寺 吟行	13名
5月30日	第21回 映画鑑賞会	「めまい」 成美教育文化会館	270名
6月1日	第23回 講演会	米光 慶二郎 氏 (当会会員) 「映画玉手箱・・・こぼれ話」	43名
7月18日	諸芸術鑑賞会	「中村紘子トーク&コンサート」 ルネ小平	11名
7月21日	ウォーキング部会	山手線一周 新宿～原宿	11名
7月26日	カラオケを楽しむ会	東久留米東口 歌うんだ村	13名
8月20日	第22回 映画鑑賞会	「エデンの東」 成美教育文化会館	300名
9月5日～6日	書道部会	鍊成会 四万温泉	11名
9月23日	ウォーキング部会	山手線一周 原宿～渋谷	14名
9月28日	女性サークル	及川鳴り物博物館見学	7名
10月15日	深秋コンパ	鮮乃庄 (納涼会变貌)	19名
10月19日～20日	俳句部会	湯河原 吟行	9名
10月21日	グルメ部会	横浜中華街の料理と山下公園散策	10名
10月30日～11月2日	書道部会	秋の市民文化祭へ作品出展	
11月21日	散策山歩きの会	日和田山から高麗のさとハイク	11名
11月23日	ラグビー観戦会	伝統の早慶戦 秩父宮ラグビー場	5名
11月26日	ウォーキング部会	山手線一周 渋谷～目黒	11名
11月27日	第23回 映画鑑賞会	「シェーン」 成美教育文化会館	260名
11月29日～30日	囲碁部会	合宿 奥秩父小鹿野「越後屋旅館」	8名
12月5日	郷土研究会	南沢水道施設・自由学園見学会	23名
12月6日	第24回 講演会	米光 慶二郎 氏 (当会会員) 「司馬 遼太郎の世界」	50名
2月27日	第23回 映画鑑賞会	「王様と私」	280名
3月29日	ウォーキング部会	山手線一周 目黒～大崎	14名

平成20年7月
カラオケ部会



平成20年3月
ウォーキング部会



15年目 平成21年度

2009年4月～翌年3月 会長 平山正徑氏 会員数 156名
第5代会長 平山 正徑 氏 就任

I. 第15回定時総会

4月5日 於) 成美教育文化会館 総会出席：66名
出席者 大学側 金子 太郎 早稲田大学渉外局課長
文化講演会 山崎 哲夫氏 (元ニューヨーク総領事館総領事査証部長)
演題 『ニューヨーク日本人村村長奮戦す』

II. 発刊物

・東稲ニュース 第46号 5月10日 第47号 7月10日 第48号 9月10日
第49号 11月10日 第50号 1月10日 第51号 3月10日
・会報「杜の西北」 休刊に
・会員名簿 7月10日

III. 部会、その他催事

4月4日	太極拳の集い	野外稽古 稲荷山公園	25名
5月10日	東稲ニュース 50代・60代未加入校友に配布・勧誘	2名新加入	
5月17日	俳句部会	府中 郷土の森 吟行	13名
5月22日	散策山歩きの会	七国峠・岩倉温泉遊歩	6名
6月6日	囲碁部会	オール早稲田囲碁祭り 日本棋院	12名
6月9日	グルメ部会	柴又・寅さん・帝釈天「川甚」	11名
6月15日	女性サークル	西武球場 ゆり園 散策	8名
6月16日	第25回 映画鑑賞会	「裏窓」 成美教育文化会館	300名
7月20日	ウォーキング部会	山手線一周 大崎～品川	10名
7月31日	カラオケを楽しむ会	清瀬のシダックス	14名
9月5日～6日	書道部会	鎌成会 箱根仙石原	8名
9月17日	第26回 映画鑑賞会	「赤い靴」 成美教育文化会館	300名
9月20日	俳句部会	関口芭蕉庵 吟行	13名
9月23日	ウォーキング部会	山手線一周 品川～新橋	21名
10月10日	秋の旨いもの会	成美教育文化会館 — 男の料理教室から発展 —	30名
11月20日	第27回 映画鑑賞会	「慕情」 成美教育文化会館	303名
11月20日～22日	書道部会	第5回作品展 成美教育文化会館	
11月23日	ウォーキング部会	山手線一周 新橋～東京	12名
11月23日	ラグビー観戦会	早慶戦 秩父宮ラグビー場	9名
11月26日	グルメ部会	ちゃんこ鍋と江戸東京博物館見学	6名
11月28日～29日	囲碁部会	合宿 奥秩父小鹿野「越後屋旅館」	10名
11月27日	女性サークル	熊谷 守一美術館 見学	4名
12月5日	散策山歩きの会	紅葉の鎌倉ハイキング	18名
12月6日	第25回 講演会	山崎 丈 氏 (東久留米郷土資料室員) 「東久留米の歴史と文化①」 市民プラザ	93名
12月22日	諸芸術鑑賞会	ハンドベルの音色にゆられて ルネ小平	12名
3月25日	第28回 映画鑑賞会	「グレンミラー物語」 成美教育文化会館	300名
3月28日	ウォーキング部会	山手線一周 東京～秋葉原	19名

平成21年4月
太極拳の集い



平成21年7月
女性サークル



16年目 平成22年度

2010年4月～翌年3月 会長 平山正徑氏 会員数 157名

I. 第16回定時総会

4月18日 於) 成美教育文化会館 総会出席：83名
 出席者 大学側 本多 聖治 早稲田大学理事
 文化講演会 松井 信義
 (骨董・暮らしのうつわ花田店主 早大校友)
 演題 『白洲 正子の素顔』

II. 発刊物

・東稲ニュース 第52号 5月10日 第53号 7月10日 第54号 9月10日
 第55号 11月10日 第56号 1月10日 第57号 3月10日
 ・会員名簿 7月10日

III. 部会、その他催事

4月2日	郷土研究会	立野緑地・自由学園歴史と桜を求めて	10名
4月25日	俳句部会	東村山 正福寺・北山公園 吟行	14名
5月29日	野球早慶戦観戦会	斉藤祐樹4年春 神宮球場超満員	11名
6月4日	諸芸術鑑賞会	千住 真理子リサイタル ルネ小平	13名
6月6日	散策山歩きの会	加治丘陵・六道山公園散策	13名
6月10日	グルメ部会	六本木ミッドタウン L. RISTORANTE	9名
6月17日	女性サークル	新江戸川公園・旧細川邸・永青文庫	9名
6月24日	第29回 映画鑑賞会	「地上より永遠に」 成美教育文化会館	270名
7月31日	カラオケを楽しむ会	会場は東久留米駅北口 オンチッチへ	15名
8月18日	第30回 映画鑑賞会	「シャレード」 成美教育文化会館	320名
10月11日	第3回 秋の旨いもの会	お国自慢・腕自慢の料理ふんだんに…	45名
10月17日	稲門祭	安宅初代会長校友会功労賞に輝く	
10月27日	女性サークル	森永乳業多摩工場見学	9名
10月30日	野球早慶戦観戦会	斉藤祐樹最後の早慶戦・僕は持っている…	10名
11月18日	グルメ部会	九段 フランス料理「グラン・コジェ」	8名
11月21日	三多摩稲門会	東久留米・東村山・清瀬が幹事稲門会	20名参加
11月23日	ウォーキング部会	奥島元総長 記念講演「早稲田と私」	
11月25日	第31回 映画鑑賞会	山手線一周 秋葉原～上野	11名
12月12日	散策山歩きの会	「ポセイドンアドベンチャー」 成美教育文化会館	280名
2月3日	第32回 映画鑑賞会	鎌倉 獅子舞を堪能	17名
3月24日	女性サークル	「情婦マノン」 成美教育文化会館	300名
		「鈴亭」	9名

平成22年7月
ゴルフ早慶戦平成22年5月
郷土研究会

17年目 平成23年度

2011年4月～翌年3月 会長 平山正徑氏 会員数 164名

I. 第17回定時総会

4月17日 於) 成美教育文化会館 総会出席：69名
出席者 大学側 内田 勝一 早稲田大学副総長
河口 俊二 地域担当
文化講演会 榎本 隆司 早大名誉教授
テーマ 「ロマンの残党 -- もも・クリ三年 柿・・・」

II. 発刊物

・東稲ニュース 第58号 5月10日 第59号 7月10日 第60号 9月10日
第61号 11月10日 第62号 1月10日 第63号 3月10日
・会員名簿 7月10日

III. 部会、その他催事

5月19日	第33回 映画鑑賞会	「終着駅」成美教育文化会館	320名
5月22日	ウォーキング部会	山手線一周 上野～日暮里	15名
6月3日	散策山歩きの会	加治丘陵散策	7名
6月4日	囲碁部会	早稲田囲碁祭り Aチーム山崎氏4連勝 16名参加 山崎 丈 氏(東久留米郷土資料室員)	
6月5日	第26回 講演会	「東久留米の歴史と文化②」 東部地域センター	85名
6月17日	グルメ部会	ワセダ 「鰻 すず金」	11名
9月21日	第34回 映画鑑賞会	「ローマの休日」 成美教育文化会館	300名
9月23日	ウォーキング部会	山手線一周 日暮里～田端	12名
9月24日	太極拳の集い	10周年記念パーティー 成美教育文化会館	30名
10月10日	第3回 秋の旨いもの会	自慢の料理、一本釣りひらめドンドン出た	35名
11月9日	ゴルフ部会	早慶戦 無念の敗戦	10名
11月17日	グルメ部会	神田 「いせ源」 あんこう鍋	9名
11月19日～20日	囲碁部会	合宿 奥秩父 越後屋旅館	9名
11月27日	ウォーキング部会	山手線一周 田端～巣鴨	15名
12月2日	散策山歩きの会	平林寺の紅葉 こんな近くに絶品紅葉	13名
12月15日	第35回 映画鑑賞会	「自転車泥棒」 成美教育文化会館	280名
12月16日～18日	書道部会	第6回作品展 成美教育文化会館 81点 出展 来場者 450名	14名
1月21日	諸芸術鑑賞会	早稲田オーケストラ 練馬文化会館	20名
2月25日	郷土研究会	府中梅まつり 郷土の森・大國魂神社	4名
3月8日	第36回 映画鑑賞会	「巴里のアメリカ人」 成美教育文化会館	280名
3月25日	ウォーキング部会	山手線一周 巣鴨～池袋	11名

平成24年1月
書道部第6回作品展



平成23年3月
映画鑑賞会



18年目 平成24年度

2012年4月～翌年3月 会長 平山正経氏 会員数 155名

I. 第18回定時総会

4月17日 於)成美教育文化会館 総会出席：76名
 出席者 東久留米市 馬場 一彦 市長
 大学側 河口 俊二 地域担当
 文化講演会 女性講師 神田 香織師
 テーマ 「花も嵐も・・・女性講師が語ります」

II. 発刊物

・東稲ニュース 第64号 5月10日 第65号 7月10日 第66号 9月10日
 第67号 11月10日 第68号 1月10日 第69号 3月10日
 ・会員名簿 7月10日

III. 部会、その他催事

4月6日	グルメ部会	天麴羅 早稲田 「高七」	12名
5月10日	女性サークル	幸まる寿司	9名
5月20日	俳句部会	江東・深川 芭蕉記念館 吟行	11名
5月22日 ～23日	新設 旅行同好会	信州 松本・安曇野・善光寺	15名
5月27日	ウォーキング部会	山手線一周 池袋～高田馬場・早稲田大学	18名
		一周達成雑司ヶ谷霊園・鬼子母神・水稻荷 完結 万歳	
6月7日	第37回 映画鑑賞会	「静かなる男」 成美教育文化会館	280名
9月27日	第38回 映画鑑賞会	「素晴らしきかな人生」 成美教育文化会館	290名
10月3日	ウォーキング部会	向島百花園から浅草寺・スカイツリー	14名
10月8日	第4回秋の旨いもの会	市内在住の若手20代・30代招待	30名
		(2008年卒業生 1名参加)	43名
10月8日	第27回 講演会	守屋 幸一郎氏(東村山稲門会会員) 「私のワセダと早稲田スポーツ」	48名
10月11日	女性サークル	多摩六都館 1億4000万個の星を見る 新装なったプラネタリウム	4名
10月25日～26日	旅行同好会	東北被災地応援ツアー 石巻・南三陸町	12名
11月15日	ウォーキング部会	武蔵国分寺・殿ヶ谷庭園・滄浪泉園	10名
11月29日	第39回 映画鑑賞会	「昼下がりの情事」 成美教育文化会館	280名
1月19日	諸芸術鑑賞会	早稲田オーケストラ ニューイヤーコンサート	20名
2月5日	女性サークル	山岡さんを囲む会 幸まる寿司	9名
2月28日	第40回 映画鑑賞会	「第三の男」 成美教育文化会館	280名

平成24年9月
お誕生会平成24年4月
女性講師 神田 香織師
文化講演会

19年目 平成25年度

2013年4月～翌年3月 会長 安次峰暁氏 会員数 157名
第6代会長 安次峰 暁氏 就任

I. 第19回定時総会

4月21日 於) 成美教育文化会館 総会出席：68名
出席者 大学側 河口 俊二 地域担当副部長
文化講演会 倉田 秀道 氏 (早大客員教授、早大スキー部監督)
演題 『勝利の裏側にあるもの』

II. 発刊物

・東稲ニュース 第70号 5月10日 第71号 7月10日 第72号 9月10日
第73号 11月10日 第74号 1月10日 第75号 3月10日
・会員名簿 7月10日

III. 部会、その他行事

4月11日	女性サークル	護国寺とオルゴールの小さな博物館	6名
5月11日	諸芸術鑑賞会	早大マンドリン楽部100周年記念公演 東京文化会館大ホール	20名
5月26日	ウォーキング部会	小江戸 川越 見て歩き	10名
5月30日	第41回 映画鑑賞会	「モンパルナスの灯」 成美教育文化会館	290名
6月16日～17日	旅行同好会	秘湯鎌田温泉・照葉峡・奥日光の旅	17名
9月26日	第42回 映画鑑賞会	「汚名」 成美教育文化会館	270名
9月28日	太極拳の集い	13周年記念パーティー	31名
9月29日	ウォーキング部会	トトロの森1号地と狭山湖	15名
10月14日	第28回 講演会	伊佐 九三四郎氏 (当会会員) 「荒川を歩く ―源流から東京湾まで―」	65名
10月14日	第5回 秋の旨いもの会	市内在住の若手20代・30代招待 (H15年卒の女子 2名参加)	44名
10月27日	国分寺稲門会40周年	早実 小室哲也記念ホール	4名
10月29日	グルメ部会	横浜中華街&三溪園散策	10名
11月10日～11日	旅行同好会	東北被災地応援ツアー② 磐梯吾妻・会津	17名
11月14日	女性サークル	朝倉彫塑館と谷中銀座ぶらり	5名
11月15日	第43回 映画鑑賞会	「花咲ける騎士道」 成美教育文化会館	260名
11月15日～17日	書道部会	第7回作品展 成美教育文化会館	13名
11月30日～12月1日	囲碁部会	合宿 奥秩父 越後屋旅館	9名
12月1日	ラグビー観戦会	今の国立競技場 最後の早明戦 国際書画交流展 東京都美術館	5名
1月12日～17日	書道部会	1517人入場	
1月18日	諸芸術鑑賞会	早稲田オーケストラ ニューイヤーコンサート	18名
2月15日	第44回 映画鑑賞会	「愛の調べ」 成美教育文化会館	280名
3月15日	太極拳の集い	20周年記念稽古 「これからはじめる太極拳」 初めて太極拳をする人13名参加	37名

平成26年1月
ラグビー観戦部会



平成26年
俳句部会の皆さん



20 年目 平成 26 年度

2014 年 4 月～翌年 3 月 会長 安次峰暁氏 会員数 164 名

I. 第 20 回定時総会

4 月 20 日 於) 成美教育文化会館
出席者 東久留米市 総会出席：76 名
大学側 並木 克己 市長
文化講演会 内田 勝一 早稲田大学副総長
河川 俊二 地域担当副部長
原 武史氏 (明治学院大学教授)
1986 年政治経済学部卒
演題 『東久留米のアイデンティティとは何か』

II. 発刊物

・東稲ニュース 第 76 号 5 月 10 日 第 77 号 7 月 10 日 第 78 号 9 月 10 日
第 79 号 11 月 10 日* 第 80 号 1 月 10 日* 第 81 号 3 月 10 日*
*マークの付いているものは予定です
・会員名簿 7 月 10 日

III. 部会、その他催事

4 月 30 日	グルメ部会	新座 蕎麦 「みやもと」	16 名
5 月 8 日～9 日	旅行同好会	三保の松原・寸又峡・忍野八海	16 名
5 月 12 日	ゴルフ部会	玉村ゴルフ場	
5 月 25 日 記念事業	ウォーキング部会	小平霊園 早稲田の先輩野口雨情墓参	15 名
5 月 29 日 記念事業	第 45 回 映画鑑賞会	黒目川源流～村野邸を訪ねて	
5 月 31 日 記念事業	野球早慶戦観戦会	「風と共に去りぬ」成美教育文化会館	超満員
		明治神宮野球場	14 名



平成 26 年 3 月
「これからはじめる太極拳」 於：成美教育文化会館

第 45 回 映画鑑賞会
於：成美教育文化会館



野球早慶戦観戦会



ウォーキング部会
小平霊園 早稲田の先輩野口雨情墓参



『感謝』

二十周年記念事業実行委員長

渡 辺 真 司

積み重ねて二十年。平成二十五年の総会にて『次の年が二十周年となる。記念の事業を企画していく』との発表を受け、総会後の役員会にて二十周年記念事業実行委員長を拝命。大変なことから一人考え込んだ。なんとか企画の案を作り、役員会にて練り上げていただいた結果いくつかのプロジェクトを企画、実行していくこととなりました。事業の柱は

I (イ) 記念式典 (コンサート・懇親パーティー)
(ロ) 記念誌の発行

II 部会活動を中心とした記念事業を展開

これらを平成二十六年度に一年かけて挙行する・・・でした。

I、記念式典には、大学関係の音楽、また加えて地元東久留米に関係する者に盛り上げていただく。記念誌は素人集団ですが、頑張ろう！(内容は別処リーダーにゆずります)

II、部会活動を中心としたイベントでは、参加団体は、太極拳の集い、ウオーキング部会、野球早慶戦観戦会、映画鑑賞会が手を挙げて頂き、各部会のメンバーの方々に大変なお骨折りを頂き大いに盛り上がり、参加者には絶大なる感謝をいただきました。他方「私の作品展」は、書道部会、俳句部会が中心となり他の多くの方々力作ともども出展頂くことになりました。

「気軽に地元で楽しむ」これこそが我が稲門会。二十年前に諸先輩方が熱き情熱をぶつけ合って設立して頂いたおかげです。計画段階からは約二年間、記念式典・コンサート・懇親会で幕を閉じますが、今後三十年、五十年と大きく羽ばたいて行けることと信じております。

当会を作り上げてこられた諸先輩、また一緒に活動している全会員に感謝致します。

『記念誌編集長を拝命して』

編集長

別 処 尚 志

昨年の夏、二十周年記念事業の検討を開始した際に、記念誌発行チームのリーダー(編集長)を引き受けざるを得なくなりました。集めた原稿の編集や印刷会社へ持ち込むデータの作成をパソコンで行うとのこと。当方はワードで文章を書き、メールに添付して送付することが可能な程度の技能故、全くのダルマ状態であり、途方に暮れてしまった。

今春に寄稿を集め出したところ、チームメンバーの小山田朋樹さんが出版会社勤務、菊池伸明さんが元IT企業社員と分った。お二人の経験・知識・技術を頼りに、小山田さんに全体の編集と印刷会社への持ち込みデータの作成・整備をお願いし、一方、菊池さんには、渡辺副会長作成の「二十年のあゆみ」のワード変換・構成と表紙・裏表紙の図案作成をして頂いた。そのため、お二人に労苦をお掛けし、お詫びする次第。お二人以外にも、大矢幹事、村上幹事のサポート、平山前会長のアドバイスさらには安次峰会長、河村副会長、渡辺副会長、高橋事務局長のご協力も得ることが出来た。

また清瀬稲門会の岡澤様、大島様からは十周年記念誌発行時のノウハウをご指導頂き、大島様ご紹介のスガハラ印刷さんは柔軟に対応して下さいました。以上記念誌発行に当たり、寄稿して下さいました皆様、ご協力、ご指導、ご援助下さった関係者の皆様ありがとうございました。

写真提供

表紙・表紙裏・裏表紙写真

早稲田大学校友会

東久留米市役所

P 65 佐藤信太郎(平七 文)